J

CELVIANO AP-45 AP-45C

取扱説明書（保証書別添）

ご使用の前に「安全上のご注意」を
よくお読みの上、正しくお使いください。
本書は、お読みになった後も大切に
保管してください。

CASIO

安全上のご注意

このたびは、カシオ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
- ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書は、お読みになった後も大切に保管してください。

絵表示について
この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警　告	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠ 注　意	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△ 記号は「気をつけるべきこと」を意味しています。（左の例は感電注意）

⃠ 記号は「してはいけないこと」を意味しています。（左の例は分解禁止）

● 記号は「しなければならないこと」を意味しています。（左の例は電源プラグをコンセントから抜く）

⚠ 警　告

電源コードに注意する

●電源は使いかたを誤ると、火災・感電の原因となります。次のことは必ずお守りください。
- 電源は、AC100V(50/60Hz)のコンセントを使用する
- 1つのコンセントにいくつもの電気製品をつなぐ、いわゆるタコ足配線をしない

●電源コードは使いかたを誤ると、傷がついたり破損して、火災・感電の原因となります。次のことは必ずお守りください。
- 重いものをのせたり、加熱しない
- 加工したり、無理に曲げない
- ねじったり、引っ張ったりしない
- 電源コードやプラグが傷んだらお買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に連絡する

●濡れた手で、コンセントに差し込んである電源プラグに触れないでください。感電の原因となります。

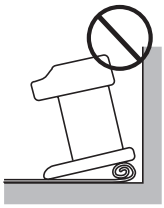
●製品本体に水のかからない状態で使用してください。水がかかると火災や感電の原因となります。

●製品本体の上に花瓶など液体の入ったものを置かないでください。水がかかると火災や感電の原因となります。

不安定な場所に置かない

本機を、ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定なところ*に置かないでください。倒れてけがをする恐れがあります。
* じゅうたんの重なりやコードの挟み込みなどに注意

スタンドは必ず本体とネジでしっかりと固定してご使用ください。本体が落ちてけがをする恐れがあります。



⚠ 警 告

本機やスタンドの上に乗らない

本機の上にのったり、揺らしたりしないでください。特に小さなお子様のいるご家庭では十分にご注意ください。スタンドが倒れてけがをする恐れがあります。

火中に投入しない

本機を火中に投入しないでください。破裂による火災・けがの原因となります。

水などの入った容器などを置かない

本機、または鍵カバーの上に次のものを置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

- 水などの入った容器。(花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)
- 小さな金属物。(ヘアピン、縫い針、硬貨など)
- 燃えやすいもの。
- ろうそくなど炎が発生しているもの。

万一、異物が本機の内部に入った場合は、次の処置を行なってください。

1. 電源スイッチを切る。
2. 電源プラグをコンセントから抜く。
3. お買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に連絡する。

水気のある場所で使用しない

火災や感電を防止するため、雨のかかる場所また水気のある場所では本機を絶対に使用しないでください。

⚠ 警 告

分解・改造しない

本機を分解・改造しないでください。感電・やけど・けがをする原因となります。内部の点検・調整・修理はお買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口にご依頼ください。

煙、臭いなどの異常に注意する

煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源スイッチを切る。
2. 電源プラグをコンセントから抜く。
3. お買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に連絡する。

落とさない、ぶつけない

本機を落としたときなど、破損したまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源スイッチを切る。
2. 電源プラグをコンセントから抜く。
3. お買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に連絡する。

袋をかぶらない、飲み込まない

本機が入っていた袋をかぶったり、飲み込んだりしないでください。窒息の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

鍵カバーの開け閉めについて

鍵カバーは完全に開けてご使用ください。閉めるときは鍵カバーを手前に持ち、ゆっくりと閉めてください。本機と鍵カバーとの間に指をはさみ、けがの原因となることがあります。

⚠ 注 意

電源について

いつでも電源プラグが抜けるよう、電源プラグに手が届く場所で本機をお使いください。

電源プラグに注意する

電源コードは使いかたを誤ると、火災・感電の原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。

- 電源コードをストーブ等の熱器具に近づけない
- プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない（必ずプラグ本体を持って抜く）
- 使用後は本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

電源プラグに注意する

電源プラグは使いかたを誤ると、火災・感電の原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。

- プラグはコンセントの奥まで確実に差し込む
- 雷雨のとき、または旅行などで長期間使用しないときはプラグをコンセントから抜く
- コンセントから抜いたプラグの刃と刃の周辺部分にほこりがたまらないように清掃する

移動させるときは

本機を移動させる前には、必ず次の処置を行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

1. 電源プラグをコンセントから抜く。
2. ペダル接続用のコードや背面接続コードなどを外したことを確認する。

⚠ 注 意

お手入れについて

お手入れの際は、プラグ本体をコンセントから抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。また、本体が落ちてけがの原因となることがあります。

本機やスタンドに乗らない

倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。特に小さなお子様にはご注意ください。

コネクター部への接続注意

コネクター部には、指定以外の別売品を接続しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

置き場所に注意する

本機を次のような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

- 湿気やほこりの多い場所
- 調理台のそばなど油煙が当たるような場所
- 暖房器具の近く、ホットカーペットの上、直射日光があたる場所、炎天下の車中など本機が高温になる場所

本機を、家具などの塗装面に直接置かないでください。本機底面のゴム足と塗料が反応し、塗装面が汚れたり、傷つくことがあります。ゴム足の下にフェルトなどの布を敷いて、ご使用ください。

重いものを置かない

本機の上に重いものを置かないでください。スタンドが倒れたり、のせたものが落ちてけがをする恐れがあります。

⚠ 注 意

音量に注意する

大きな音量で長時間使用しないでください。特にヘッドホンをご使用の際にはご注意ください。設定によっては聴力障害の原因となることがあります。

スタンドは正しく組み立てる

スタンドが倒れたり、本機が落ちたりして、けがの原因となることがあります。
スタンドに記載されている組み立ての説明にしたがって、しっかりと組み立ててください。また、本機はスタンドに正しく設置してご使用ください。

- 本体をスタンドにのせるときは、本体とスタンドの間に手をはさまないようご注意ください。

- 本機の設置や移動は必ず二人以上で行ってください。一人で無理に移動させると、スタンドが倒れてけがをする恐れがあります。

- 本機の設置や移動時には、スタンドを引きずったり、前後に傾けたりしないでください。スタンドが倒れてけがをする恐れがあります。

- スタンドのネジがゆるんでいないか時々点検してください。ゆるんでいたら再度ネジをしっかりと締めてください。スタンドが倒れたり、本体が落ちてけがをする恐れがあります。

イスについて

説明にしたがって、しっかりと組み立ててご使用ください。イスをゆらしたり、傾けたり、イスの上で飛び跳ねたりしないでください。変形したり、ネジがゆるんだりすると、倒れてけがの原因となることがあります。

このマークはEU諸国におけるリサイクル規制のマークです。

主な特長

■ いろいろな音色で演奏することができます。（16 音色）☞10 ページ

ピアノやパイプオルガンなど、16 種類の音色から選んで演奏できます。
これらの音色の「明るさ」を調節したり（ブリリアンス）、2 つの音色を重ねたり（レイヤー）することができます。
また、演奏に奥行きと深みを与える残響効果をかけたり（デジタルエフェクト）、アコースティックピアノと同じように、3種類のペダル効果をかけたりすることもできます。

■ 一定の速さを保つカウント音が鳴らせます。（メトロノーム）☞17 ページ

曲に応じて、カウント音の速さや拍子を自由に変えることができます。ミュージックライブラリーのときなど、練習用にお使いください。

■ 16 曲のデモ演奏が内蔵されています。（デモ）☞20 ページ

それぞれの曲は、各音色ボタンと、同じ音色を使って演奏されます。

■ 演奏を 2 つの場所に録音、再生することができます。（ソングメモリー）☞18 ページ

2 つの場所のそれぞれに、別々の曲を録音、再生したり、パートレッスンなどで一方に録音し、その再生に合わせてもう一方に録音したものを、あとで同時に再生したりすることもできます。

■ 内蔵曲 50 曲を自分のペースで練習できます。（ミュージックライブラリー）☞21 ページ

ミュージックライブラリーの曲は、右手と左手（連弾曲は第 1 ピアノと第 2 ピアノ）の 2 つのパートに分かれています。それぞれのパートを分けて弾いたり、それぞれのパートを消して、その部分を自分で弾いたりして練習することができます（パートレッスン）。

■ 古典的な鍵盤楽器の響きを再現できます。☞24 ～ 26 ページ

バロックなどの古典音楽では、現代の音楽と楽器そのものの音程や調律方法が異なります。古典的な鍵盤楽器の響きを再現するために、さまざまな「音律」の選択（7 種類）と「バロック・ピッチ」の設定が可能になっています。

■ 鍵盤の設定やタッチを変えることができます。☞23、24 ページ

本機の鍵盤全体の音の高さを、半音単位で上下させたり（トランスポーズ）、本機全体の音の高さを調節すること（チューニング）ができます。また、鍵盤を弾くときの強弱の感度を変えること（タッチセレクト）もできます。

■ MIDI 端子を備えています。☞27 ページ

他の楽器と接続すれば、片方を弾くだけで両方を鳴らすことができます。また、市販品の MIDI シーケンサーと接続すると、本機 1 台で複数のパートを鳴らすことができます。

目次

安全上のご注意

主な特長 4

各部の名称 6

電源について 8

接続について 9

付属品・別売品について 9

基本的な操作をしてみましょう 10

いろいろな音を出すには 10

音色に効果をかけるには（デジタルエフェクト） 15

ペダルの効果をかけるには 16

メトロノームを使うには 17

演奏を録音してみましょう 18

ソングメモリーについて 18

録音するには 18

再生するには 19

消去するには 19

デモ演奏を聴いてみましょう 20

全曲を聴くには 20

曲を選んで聴くには 20

演奏を止めるには 20

ミュージックライブラリーの曲を使って演奏してみましょう 21

お手本の演奏を聴くには 21

パートごとに練習するには（パートレッスン） 22

鍵盤の設定を変えてみましょう 23

タッチセレクトについて 23

トランスポーズについて 23

チューニングについて 24

音律について 24

バロックピッチについて 26

MIDI を使ってみましょう 27

MIDIについて 27

MIDIの接続について 27

複数チャンネルによる同時受信（マルチティンバー）について 27

キーボードチャンネルの設定について 27

ソングメモリーの再生情報の送信 28

ローカルコントロールの設定について 28

本機が送受信するMIDI情報について 28

困ったときは 30

イスの組み立てかた 31

スタンドの組み立てかた 32

譜面立ての立て方 34

製品仕様 35

ご使用上の注意 36

資料 37

初期設定一覧表 37

ミュージックライブラリー曲一覧表 38

保証・アフターサービス 39

MIDI インプリメンテーション 40

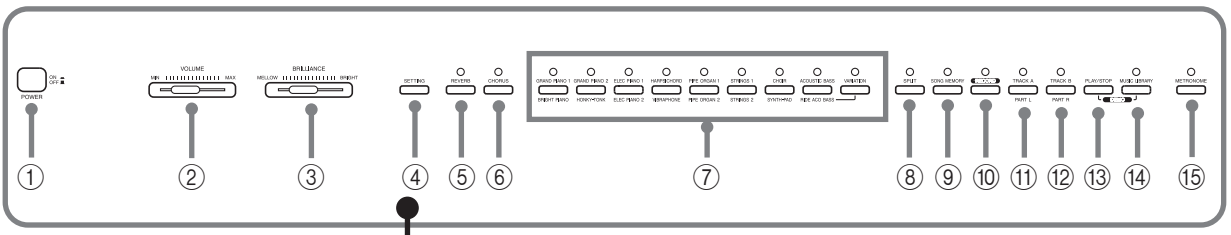
チャンネルメッセージ 40

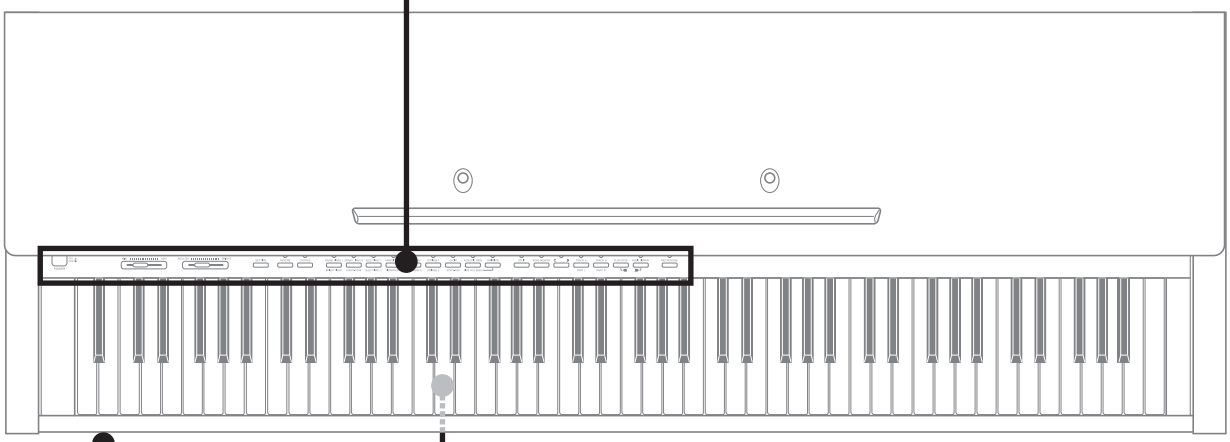
システムメッセージ 43

MIDI インプリメンテーション・チャート

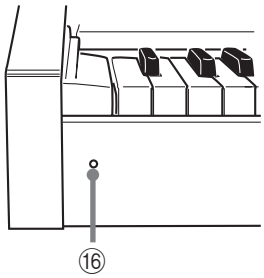
各部の名称

● ☞ マーク右の数字は、参照ページです。
● (　) 内の文字は、本体に印刷されている名称です。

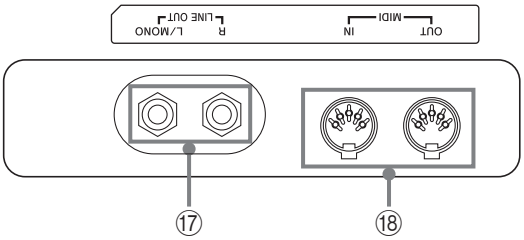


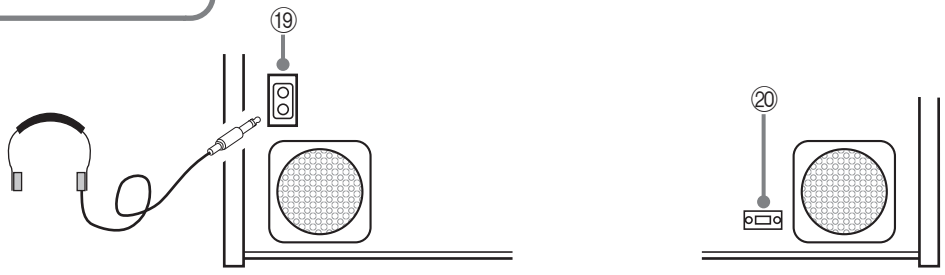


【前面部】



【底面部】





⚠注意

● 本機を演奏する際、必ず本機のスライド式鍵カバーを完全に開けるようにしてください。不完全な開け方で演奏した場合、演奏の際の振動でカバーが閉まり、本機とカバーとの間に指をはさむことがあり、危険です。

① 電源ボタン(POWER)☞8, 10

② ボリュームスライダー(VOLUME)☞9, 10

③ ブリリアンススライダー(BRILLIANCE)☞14

④ 設定ボタン(SETTING)☞右記

⑤ リバーブボタン(REVERB)☞15

⑥ コーラスボタン(CHORUS)☞15

⑦ トーンボタン　☞10

⑧ スプリットボタン(SPLIT)☞13

⑨ ソングメモリーボタン(SONG MEMORY)☞ 18, 19

⑩ レコードボタン(RECORD)☞18, 19

⑪ トラックA/パートLボタン(TRACK A/PART L)☞18, 19

⑫ トラックB/パートRボタン(TRACK B/PART R)☞18, 19

⑬ プレイ/ストップボタン(PLAY/STOP)☞19～22

⑭ ミュージックライブラリーボタン(MUSIC LIBRARY)☞20, 21

⑮ メトロノームボタン(METRONOME)☞17

⑯ 電源ランプ　☞8

⑰ ラインアウト端子(LINE OUT R, LINE OUT L/MONO)☞9

⑱ MIDIイン端子(MIDI IN)、MIDIアウト端子(MIDI OUT)☞27

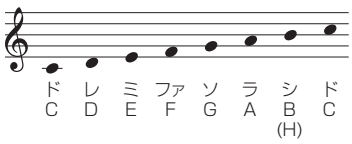
⑲ ヘッドホン端子(PHONES)☞9

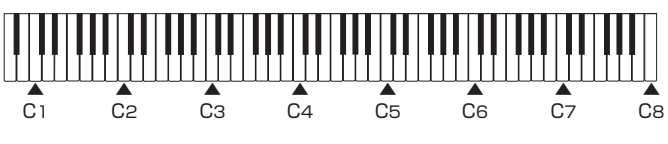
⑳ ペダルコネクタ　☞34

設定ボタンを使った操作について

● 設定ボタン + 鍵盤押し
- ➪ メトロノームの設定 ☞ 17
- ➪ タッチセレクトの設定 ☞ 23
- ➪ トランスポーズの設定 ☞ 23
- ➪ チューニングの設定 ☞ 24
- ➪ 音律の設定 ☞ 24
- ➪ バロック・ピッチの設定 ☞ 26
- ➪ MIDI関連の設定 ☞ 27, 28

NOTE

音名の対応

C4 などの数字は鍵盤の位置を示しています。



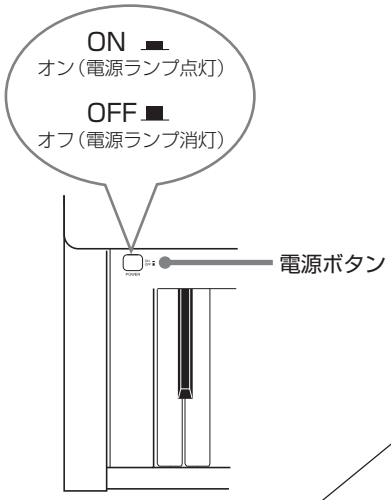
電源について

本機は、電源として家庭用電源を使用します。
ご使用後は、必ず電源を切ってください。

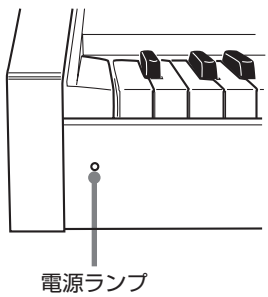
1 ピアノ本体の電源ボタンがオフの状態になっているのを確認してください。

- もしオンになっていたら、ボタンを押してオフの状態にしてください。

【スイッチ部】



【前面図】



2 電源プラグを家庭用コンセントに差し込みます。

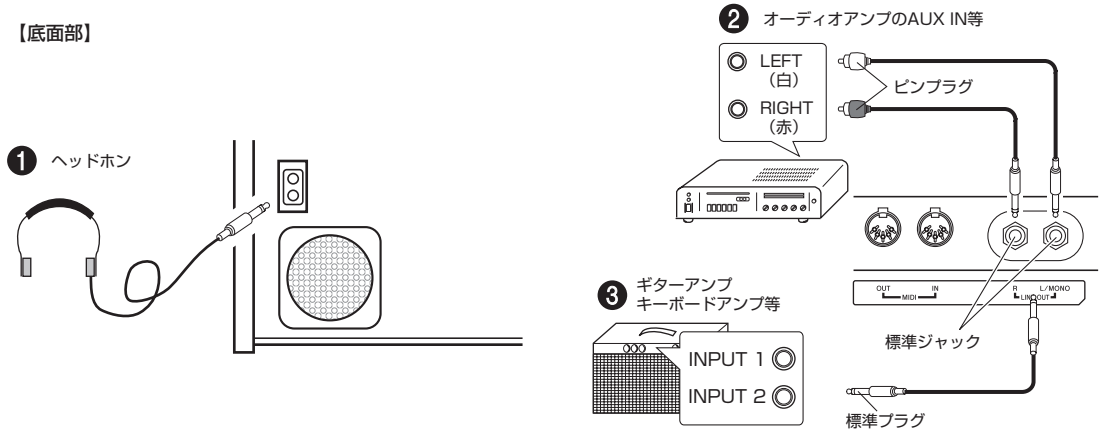
重要

- **電源プラグを抜き差しするときは、電源ボタンがオフになっている事を確認してください。**

本機の電源を完全に切るには、電源ランプが消えた後にコンセントから電源プラグを抜いてください。安全上の対処等で電源を切る場合、必ずお守りください。

接続について

オーディオ機器や楽器用アンプと接続すれば、それらの機器のスピーカーの能力に応じたより迫力のある音量や音質で、演奏を楽しめます。



重要

- **接続の際は、本機のボリュームスライダーを（接続する機器側にも音量調節があればそちらも）絞っておき、接続後、適切な音量に調節してください。**
- **接続に際しては、接続機器の取扱説明書も合わせてお読みください。**

ヘッドホンを接続するには（図 ①）

付属のヘッドホンをヘッドホン端子に接続します。本機のスピーカーからは音が出なくなり、夜間なども周囲に気がねなく演奏が楽しめます。なお、耳の保護のために音量を上げすぎないようにご注意ください。

オーディオ機器を接続するには（図 ②）

R（Right）が右チャンネル、L/MONO（Left）が左チャンネルの音です。市販の接続コードで図❷のように、両方とも接続してください。通常はオーディオ機器のインプットセレクターを、接続した端子（AUX IN 等）に切り替えます。音量は本機のボリュームスライダーでも調節できます。

楽器用アンプを接続するには（図 ③）

R（Right）が右チャンネル、L/MONO（Left）が左チャンネルの音です。L/MONO だけに接続すれば、両方のチャンネルの混ざった音になります。市販の接続コードで図❸のように接続してください。音量は本機のボリュームスライダーでも調節できます。

付属品・別売品について

付属品や別売品は、必ず本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

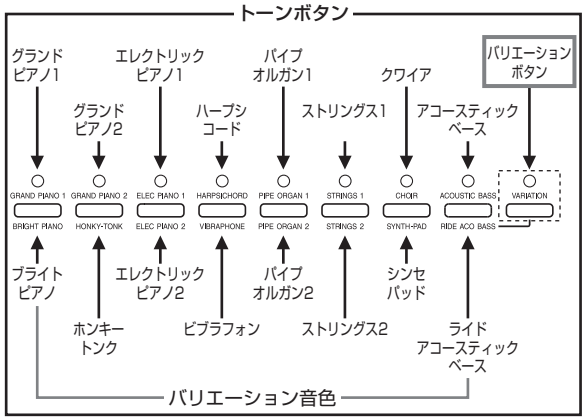
基本的な操作をしてみましょう

いろいろな音を出すには

ここでは、音色の選び方や使い方などを説明します。

音色を選ぶには

本機には、16種類の音色が備わっています。



バリエーション音色

各トーンボタンには、通常の音色（ボタンの上側に音色名が記載されている）とバリエーション音色（ボタンの下側に音色名が記載されている）の2種類の音色が割り当てられています。選択したトーンボタンにどちらの音色が割り当てられているかは、下表のようにバリエーションボタン上のランプでわかります。

以下の種類の音色を選択するには ...	バリエーションボタン上のランプは ...
通常の音色	オフ
バリエーション音色	オン

- バリエーションボタンを押して、ボタン上のランプのオンとオフを切り替えることができます。
- 現在選択されているトーンボタンを押して、通常の音色とバリエーション音色を切り替えることもできます。

NOTE

- 「トーンボタン」の16種類の音色は、鍵盤全体を使って演奏できる通常の楽音です。
- “GRAND PIANO 1”の音色はステレオサンプリングになっています。
- ボタンの下側の音色については、次項「バリエーション音色を選ぶには」をご参照ください。

操作手順

1 電源ボタンを押して、電源を入れます。

2 お好きなトーンボタンを押して、音色を選びます。

3 ボリュームスライダーを使って、音量を調節します。

- あらかじめ小さめにしておくと良いでしょう。
- 音量は“MIN”にいくほど小さく、“MAX”にいくほど大きくなります。

4 鍵盤を弾いてみましょう。

- 音を聴きながら、音量を調節しましょう。

5 演奏を終えたら、電源ボタンを押して電源を切っておきましょう。

NOTE

- 電源を入れたときは、“GRAND PIANO 1”に設定されています。

バリエーション音色を選ぶには

本機のトーンボタンの下側に記載されている音色がバリエーション音色です。

1 選びたい音色に対応したトーンボタンを押します。

2 バリエーションボタンを押します。

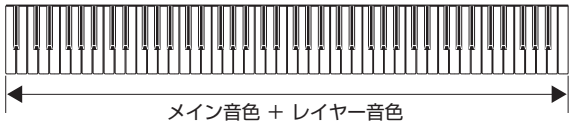
- バリエーションボタン上のランプが点灯し、バリエーション音色に切り替わります。

3 バリエーション音色を解除するには、もう一度バリエーションボタンを押して、バリエーションボタン上のランプを消灯させます。

430A-J-012A

レイヤー機能を利用するには

レイヤー機能とは、2種類の音色を重ねて演奏するための機能です。この機能を利用すれば内蔵音色の中から2つの音色（メイン音色とレイヤー音色）を選んで同時に発音させることで、まったく新しいサウンドを作ることができます。



レイヤー機能を使うには

NOTE

- メイン音色、レイヤー音色にバリエーション音色を使用する場合は、事前に各トーンボタンでバリエーション音色を選んでおいてください。

1 メイン音色にしたいトーンボタンを押しながら、レイヤー音色に設定したいトーンボタンを押します。

- メイン音色に設定したトーンボタンのランプが点灯し、レイヤー音色の方は点滅します。
- メイン音色、レイヤー音色がバリエーション音色かどうかは、以前に設定していた状態が反映されます。メイン音色がバリエーション音色に設定されている場合は、バリエーションボタン上のランプが点灯します。

2 鍵盤を弾いてみましょう。

- 2音色の重なった音で演奏できます。

3 レイヤー機能を解除するには、トーンボタンをどれか 1 つ押します。

NOTE

- レイヤー機能がオンの状態のときにデジタルエフェクトの種類を変更や解除をすると、その設定はメイン音色に保存されます。
- 例えば、エレクトリックピアノ 1 とエレクトリックピアノ 2 や、ハープシコードとビブラフォンの組み合わせなど、同じトーンボタン同士の音色は、レイヤーを重ねることができません。

レイヤー機能を使用している時のデジタルエフェクトの設定について

レイヤー機能を使用している時のデジタルエフェクトのタイプ設定は、以下のようになります。

各音色が以下の設定の場合には:	メイン音色・レイヤー音色には:
● メイン音色でデジタルエフェクトがオンになっている。 ● レイヤー音色でデジタルエフェクトがオンまたはオフになっている。	メイン音色のデジタルエフェクトのタイプが設定される。
● メイン音色でデジタルエフェクトがオフになっている。 ● レイヤー音色でデジタルエフェクトがオンになっている。	レイヤー音色のデジタルエフェクトのタイプが設定される。
● メイン音色でデジタルエフェクトがオフになっている。 ● レイヤー音色でデジタルエフェクトがオフになっている。	デジタルエフェクトは設定されない。

メイン音色の音量を調節するには

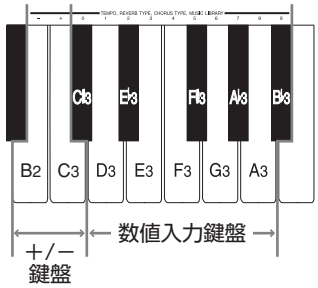
1 設定ボタンを押し、以後手順４まで押し続けます。

2 GRAND PIANO 1 ボタンを押します。

- GRAND PIANO 1ボタン上のランプが点滅します。

3 以下の方法で、メイン音量を 40 ～ 127 の間で設定します。

- 音量の数値を1つずつ変更して設定する方法：設定ボタンを押したままの状態で、＋(増える)または－(減る)鍵盤を押して音量の数値を変更します。鍵盤を押し続けると、数値をすばやく変更できます。
  ＋鍵盤と－鍵盤を同時に押すと、音量の設定は"127"になります。
- 音量の数値を入力する方法：設定ボタンを押したままの状態で、数値入力鍵盤を使って音量の数値(40～127)を入力(2桁あるいは3桁)します。設定ボタンを離した時点で音量が確定されます。1桁しか入力されていない場合や、設定範囲外の数値を入力した場合は、設定前の数値に戻ります。



- このとき、どの鍵盤を押しても音はなりません。

4 設定ボタンから手を離して、メイン音色の音量の設定を完了します。

NOTE

- メイン音色を変更しても音量の設定数値は変わりません。

レイヤー音色の音量を調節するには

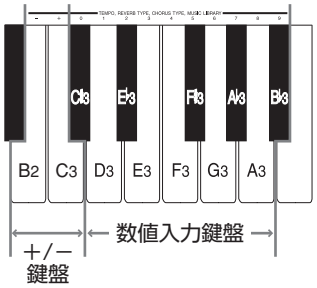
1 設定ボタンを押し、以後手順４まで押し続けます。

2 GRAND PIANO 2 ボタンを押します。

- GRAND PIANO 2ボタン上のランプが点滅します。

3 以下の方法で、レイヤー音量を 40 ～ 127 の間で設定します。

- 音量の数値を1つずつ変更して設定する方法：設定ボタンを押したままの状態で、＋(増える)または－(減る)鍵盤を押して音量の数値を変更します。鍵盤を押し続けると、数値をすばやく変更できます。
  ＋鍵盤と－鍵盤を同時に押すと、音量の設定は"72"になります。
- 音量の数値を入力する方法：設定ボタンを押したままの状態で、数値入力鍵盤を使って音量の数値(40～127)を入力(2桁あるいは3桁)します。設定ボタンを離した時点で音量が確定されます。1桁しか入力されていない場合や、設定範囲外の数値を入力した場合は、設定前の数値に戻ります。



- このとき、どの鍵盤を押しても音はなりません。

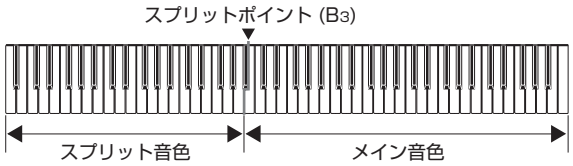
4 設定ボタンから手を離して、レイヤー音色の音量の設定を完了します。

NOTE

- レイヤー音色を変更しても音量の設定数値は変わりません。

スプリット機能を利用するには

スプリット機能とは、2つの音色を鍵盤の高音部（メイン音色）と低音部（スプリット音色）に分ける機能です。両手で鍵盤を演奏するとき、この機能で鍵盤の高音部と低音部に異なる音色を割り当てれば、2種類の楽器を左右に分けて演奏できます。



スプリット機能を使うには

1 メイン音色を選びます。

2 スプリットボタンを押して、スプリット機能をオンにします。

- ボタンの上のランプが点灯します。

3 スプリットボタンを押しながら、スプリット音色に設定したいトーンボタンを押します。

- スプリットボタンを押しながらバリエーションボタンを押して、スプリット音色のバリエーション状態を切り替えることもできます。
- スプリット音色に設定したトーンボタンのランプが点滅します。スプリット音色がバリエーション音色に設定されている場合は、バリエーションボタン上のランプも点滅します。

4 鍵盤を弾いてみましょう。

- 鍵盤の低音部（左側）はスプリット音色で、高音部（右側）はメイン音色で演奏できます。
- 低音部と高音部の境目（スプリットポイント）は変更することができます。「スプリットポイントを変更するには」をご参照ください。

5 スプリット機能を解除するには、スプリットボタンを再度押してください。

- ボタンの上のランプが消灯します。

NOTE

- スプリット機能がオンの状態のときにデジタルエフェクトの種類を変更したり解除したりすると、その設定はメイン音色に保存されます。

スプリット機能を使用している時のデジタルエフェクトの設定について

スプリット機能を使用している時のデジタルエフェクトのタイプ設定は、以下のようになります。

各音色が以下の設定の場合には:	メイン音色・スプリット音色には:
● メイン音色でデジタルエフェクトがオンになっている。 ● スプリット音色でデジタルエフェクトがオンまたはオフになっている。	メイン音色のデジタルエフェクトのタイプが設定される。
● メイン音色でデジタルエフェクトがオフになっている。 ● レイヤー機能がオンになっている (11 ページ)。 ● レイヤー音色でデジタルエフェクトがオンになっている。	レイヤー音色のデジタルエフェクトのタイプが設定される。
● メイン音色でデジタルエフェクトがオフになっている。 ● レイヤー機能はオンになっている (11ページ)が、レイヤー音色でデジタルエフェクトがオフになっている。 ● レイヤー機能がオフになっている。 ● スプリット音色でデジタルエフェクトがオンになっている。	スプリット音色のデジタルエフェクトのタイプが設定される。

スプリットポイントを変更するには

スプリット機能を使う際の、低音部（スプリット音色）と高音部（メイン音色）の境目（スプリットポイント）を変更することができます。

1 スプリットボタンを押しながら、鍵盤をひとつだけ押してください。押した鍵盤が、低音部の最高音（右端）になります。

- このとき、鍵盤を押しても音は鳴りません。

スプリット音色の音量を調節するには

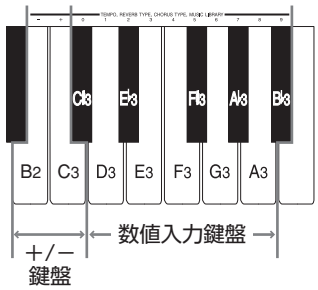
1 設定ボタンを押し、以後手順４まで押し続けます。

2 ELEC PIANO 1 ボタンを押します。

- ELEC PIANO 1ボタン上のランプが点滅します。

3 以下の方法で、スプリット音量を 40 ～ 127 の間で設定します。

- 音量の数値を1つずつ変更して設定する方法：設定ボタンを押したままの状態で、＋(増える)または－(減る)鍵盤を押して音量の数値を変更します。鍵盤を押し続けると、数値をすばやく変更できます。
  ＋鍵盤と－鍵盤を同時に押すと、音量の設定は"127"になります。
- 音量の数値を入力する方法：設定ボタンを押したままの状態で、数値入力鍵盤を使って音量の数値(40～127)を入力(2桁あるいは3桁)します。設定ボタンを離した時点で音量が確定されます。1桁しか入力されていない場合や、設定範囲外の数値を入力した場合は、設定前の数値に戻ります。



- このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。

4 設定ボタンから手を離して、スプリット音色の音量の設定を完了します。

NOTE

- スプリット音色を変更しても音量の設定数値は変わりません。

音色について

同時発音数について

本機は、同時に最大 64 音まで発音します。
ただし、一部の音色では2種類の音色を組み合わせているため最大 32 音になるものもあります（GRAND PIANO 1、BRIGHT PIANO、HONKY-TONK、ELEC PIANO 1、HARPSICHORD、STRINGS 1、CHOIR、SYNTH-PAD、RIDE ACO BASS)。

タッチレスポンスについて

鍵盤を弾くとアコースティックピアノと同じように、鍵盤を押す強さによって、音色や音量が微妙に変化します（この機能のことを「タッチレスポンス」と言います)。
なお、もとの楽器の音色の性質上、HARPSICHORD音色では、鍵盤を弾く強さによる音色や音量の変化はごくわずかです。

デジタル・サンプリングの音色について

本機で鳴らすことのできる楽器音は、より本物に近い音色を再現するために、実際の楽器音をデジタル録音した音源を用いています。しかし、実際の楽器には、本機の鍵盤の全音域(A0～C8)の音を鳴らすことができないものがあるため、元の楽器をデジタル録音しただけではすべての鍵盤をカバーできない場合があります。こうした楽器の音では、元の楽器の音域外の音については、合成した音を使っています。このため、音色によっては、本物の楽器音をデジタル録音した部分と合成音部分とで音質やエフェクトのかかり具合が若干違って感じられるものがありますが、故障ではありません。

音色の明るさを調節するには(ブリリアンス)

ブリリアンスを使うと、音色の「明るさ」を調節することができます。演奏する曲や、お好みに応じて調節してください。

1 ブリリアンススライダーのツマミを左右に動かして調節します。

- "MELLOW"にいくほどまろやかな柔らかい感じの音に、"BRIGHT"にいくほど明るく硬い感じの音になります。

音色に効果をかけるには（デジタルエフェクト）

音色に対して、さまざまな音響効果（デジタルエフェクト）を付加することができます。それぞれの音色にデジタルエフェクトをかけて、音を聴き比べてください。

デジタルエフェクトの種類

REVERB（リバーブ）

音に奥行と広がりが加わります。演奏を行なう場所によっての残響感の違いを再現するために、８種類のリバーブがついています。

エフェクトの種類と番号は、下記の通りです。

タイプ	設定鍵盤の番号※
Room 1	1
Room 2	2
Room 3	3
Stage	4
Hall 1	5
Hall 2	6
Delay	7
Pan Delay	8

※ 鍵盤の上側に記載されている番号

CHORUS（コーラス）

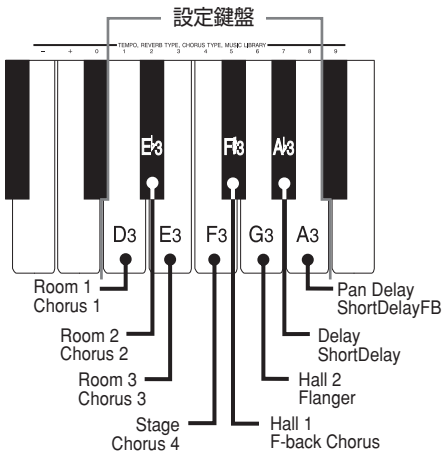
音に奥行きと厚みを加えたり、揺れを与えるような効果です。本機には、８種類のコーラスがついています。

コーラスの種類と番号は、下記の通りです。

タイプ	設定鍵盤の番号※
Chorus 1	1
Chorus 2	2
Chorus 3	3
Chorus 4	4
F-back Chorus	5
Flanger	6
ShortDelay	7
ShortDelayFB	8

※ 鍵盤の上側に記載されている番号

デジタルエフェクトの設定鍵盤



デジタルエフェクトのオン／オフ

以下のデジタルエフェクトのオン / オフを切り替えするには	以下のボタンを押します
リバーブ	リバーブボタン
コーラス	コーラスボタン

- ボタン上のランプが点灯している状態がオン（デジタルエフェクトがかかる状態）、ランプが消灯している状態がオフ（デジタルエフェクトがかからない状態）となります。

デジタルエフェクトを選ぶには

リバーブを選ぶには

1 リバーブボタンを押したままの状態で、希望の番号の設定鍵盤を押します。

- このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。

コーラスを選ぶには

1 コーラスボタンを押したままの状態で、希望の番号の設定鍵盤を押します。

- このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。

電源を入れたときの設定について

電源を入れたとき、各音色のそれぞれに適したデジタルエフェクトが、あらかじめ設定されています。
各音色ごとに設定されているデジタルエフェクトは、下記の通りです。

音色名	デジタルエフェクト	
	REVERB	CHORUS
GRAND PIANO 1	Hall 1	オフ (Chorus 3)※
BRIGHT PIANO	Hall 1	オフ (Chorus 3)※
GRAND PIANO 2	Hall 1	オフ (Chorus 3)※
HONKY-TONK	Hall 1	オフ (Chorus 3)※
ELEC PIANO 1	Hall 1	Chorus 3
ELEC PIANO 2	Hall 1	Chorus 3
HARPSICHORD	Hall 1	オフ (Chorus 3)※
VIBRAPHONE	Hall 1	Chorus 3
PIPE ORGAN 1	Hall 1	Chorus 3
PIPE ORGAN 2	Hall 1	オフ (Chorus 3)※
STRINGS 1	Hall 1	Chorus 3
STRINGS 2	Hall 1	Chorus 3
CHOIR	Hall 1	Chorus 3
SYNTH-PAD	Hall 1	Chorus 3
ACOUSTIC BASS	Hall 1	オフ (Chorus 3)※
RIDE ACO BASS	Hall 1	オフ (Chorus 3)※

※( ) : コーラスオン時の初期値

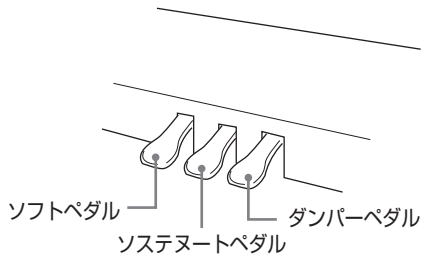
- ***これらのデジタルエフェクトの設定は、自由に変えることができます。***

NOTE

- 音色を選ぶと、その音色に対して設定されているデジタルエフェクトが自動的に選ばれます。
- 各デジタルエフェクトの設定を変更すると、変更した設定が音色ごとに保存されます。
- 電源を切ると、各音色にあらかじめ設定されているデジタルエフェクトに戻ります（上記「電源を入れたときの設定について」をご参照ください）。
- デモ曲の演奏中は、デモ曲に合ったデジタルエフェクトが自動的に選択されます。

ペダルの効果をかけるには

ダンパー、ソフト、ソステヌートの3つのペダルがあります。
ペダルの効果は下記の通りです。



【各ペダルの働き】

ダンパーペダル
.....演奏中にこのペダルを踏むと、鍵盤で弾いた音が響き、音に余韻が残ります。PIPE ORGANやSTRINGSの音色のとき、鍵盤を押している間にペダルを踏むと、踏んでいる間は音が持続して発音されます。

ソフトペダル
.....演奏中にこのペダルを踏むと、鍵盤で弾いた音の音色が柔らかくなり音量が若干小さくなります。ペダルを踏みこんだ後に弾いた音のみにかかる効果であり、鍵盤を押してからペダルを踏んでも音は変化しません。

ソステヌートペダル
.....演奏中にこのペダルを踏むと、ダンパーペダルと同様に鍵盤で弾いた音が響き、音に余韻が残ります。ダンパーペダルとの違いは、効果をかけるタイミングにあり、鍵盤を押してから、その鍵盤を離す前にペダルを踏んだ場合にのみ、その音に対して効果がかかります。

NOTE

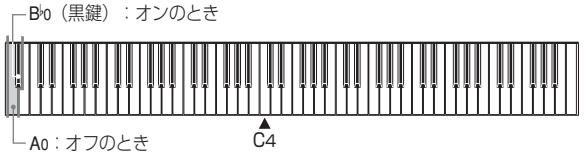
- ペダルの効果は、それぞれ下記のようにかかります。

本機の状況	ペダルの効果
ソングメモリーの録音中	鍵盤で弾いている音のみ
ソングメモリーの再生中	
デモ演奏中	
ミュージックライブラリーモード中	

- 電源を入れたときには、スプリット音色にはペダルの効果がかかりません。
  次項の操作を行うことで、スプリット音色にペダル効果をかけることもできます。

スプリット音色にペダル効果をかけるには

1 設定ボタンを押したままの状態で、いずれかの鍵盤を押します。



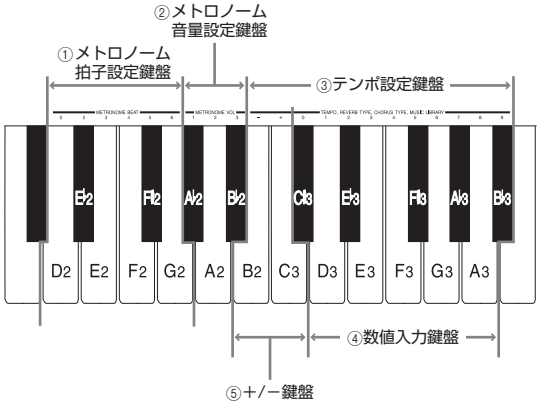
A0 ..... ペダル効果オフ
B♭0 ..... ペダル効果オン

- このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。

メトロノームを使うには

メトロノームとは、演奏を一定の速度に保つためにカウント音を鳴らすもので、曲に応じてカウント音の速さや拍子を自由に変えることができます。練習用にお使いください。

- メトロノームの設定時に使用する鍵盤は、下図の通りです。設定できる内容は、本機鍵盤部の上側に記されています。



NOTE

- 設定ボタンを押しながら、上記のどの鍵盤を押さえても音は鳴りません。

メトロノーム音を鳴らすには

準備

- レコードボタンの上のランプが消灯していることを確認してください。もしランプが点灯している場合は、レコードボタンを押してランプを消灯してください。
- メトロノームをソングメモリーと併用したい場合については、次項目の手順説明をご参照ください。

操作手順

1 メトロノームボタンを押して、メトロノームの発音を開始します。

2 拍子を設定します。

- 設定ボタンを押したままの状態で、設定したい拍子に対応している鍵盤①を押します。
- このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。
- 拍子は、2〜6拍子の間で設定できます。設定値「0」を選んだ場合は、ベル音は鳴らず、クリック音のみが鳴ります。拍子数にかかわらず練習するのに便利です。

3 以下の方法で、テンポを30〜255（1分間の拍数）の間で設定します。

- テンポの数値を1つずつ変更して設定する方法：設定ボタンを押したままの状態で、＋（増える）または−（減る）鍵盤⑤を押してテンポの数値を変更します。鍵盤を押し続けると、数値をすばやく変更できます。
  ＋鍵盤と−鍵盤を同時に押すと、テンポの数値は“120”になります。
- テンポの数値を入力する方法：設定ボタンを押したままの状態で、数値入力鍵盤④を使ってテンポの数値（30〜255）を入力（2桁あるいは3桁）します。設定ボタンを離した時点でテンポが確定されます。1 桁しか入力されていない場合や、設定範囲外の数値を入力した場合は、設定前の数値に戻ります。

4 メトロノームの発音を止めるには、もう一度メトロノームボタンを押してください。

- 同じ拍子／テンポ設定でメトロノームの発音を再開したい場合は、再度メトロノームボタンを押してください。
- 拍子／テンポ設定を変更してメトロノームの発音を再開したい場合は、再度上記の手順を行なってください。

NOTE

- メトロノームの発音中、停止中にかかわらず、テンポや拍子の設定を変更することができます。
- メトロノームは、ソングメモリー録音／再生時にも併用できます。詳しくは、次項目の説明をご参照ください。

メトロノームの音量を設定するには

演奏音に対してメトロノームの音が大きすぎる、あるいは小さすぎると感じる場合は、全体の音量に対するメトロノームの音量を調節することができます。設定は、以下の手順で行ないます。

操作手順

1 設定ボタンを押したままの状態で、メトロノーム音量設定鍵盤② を押して音量（1、2、あるいは3）を設定します。

NOTE

- 電源を入れたときは、メトロノームの音量は“2”に設定されています。

演奏を録音してみましょう

本機で行なった演奏を録音、再生することができます。

ソングメモリーについて

録音できる容量

- トラックAとトラックBの2トラック合わせて、約8,000音符分録音できます。
  トラックとは、録音する場所のことです。
- 演奏の途中で録音できる容量を超えると、自動的に録音が止まります。
  このとき、レコードボタンのランプが消灯します。

録音される内容

ソングメモリー機能を使って本機に録音できる内容は以下の通りです。

- 鍵盤で演奏した内容
  （MIDI で受信した内容は、録音できません）
- 演奏に使用した音色（レイヤー、レイヤーの音量バランス、スプリット、スプリットの音量バランス、スプリットの位置も含まれます）
  （演奏の途中で切り替えた場合、再生時にもその通り切り替わります）
- 録音時のテンポおよび拍子設定
- ペダルを操作した内容
- リバーブの設定
- コーラスの設定

録音内容の保持

本機は、録音した内容を電源を切った後にも保持するため※に、本体内にリチウム電池を内蔵しています。このリチウム電池が消耗すると、本体の電源を切ると同時に、録音内容は消去されてしまいます。内蔵のリチウム電池の寿命は、本機の製造より約5年ですので、お買い上げより相当の年数がたちましたら、最寄りのカシオテクノ・サービスステーションにご連絡ください。有償にて電池交換を行ないます。

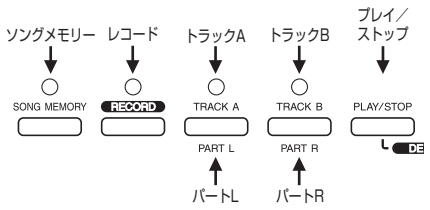
※ 録音の途中では、電源を絶対に切らないでください（右記 ***重要*** 参照）。

重要

- **どちらかのトラックが録音済みの場合で、そのトラックだけで録音できる容量一杯まで録音されている場合は、もう一方のトラック（データがないトラック）は、選択できません。**
- **本機に録音を行なう場合、以前に録音してあった内容は消去されます。録音済のトラックのランプは、点灯しています。**
- **録音中に電源が切れると、録音してあった内容はすべて消去されます。**
- **本機の故障、修理や電池交換などによる録音内容の消去により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。**

録音するには

鍵盤演奏をそのまま録音する以外に、録音済みのトラックの再生に合わせてもう片方のトラックに録音することもできます。以下、それぞれの操作の手順を個別に説明します。



鍵盤演奏をそのまま録音するには

準備

- 録音の開始時に使用する音色やデジタルエフェクトを選択しておきます。
- ミュージックライブラリーボタンの上のランプが消灯していることを確認してください。もし点灯している場合は、ミュージックライブラリーボタンを押して消灯状態にしてください。
- 録音時のテンポと拍子を設定しておきます（設定方法は、17ページのメトロノームのテンポ／拍子の設定方法と同じです）。

1 ソングメモリーボタンを押します。

- ソングメモリーボタン上のランプが点灯します。
- すでに録音済みのトラックのランプが点灯します。両トラックとも録音されていない場合は、ランプは消灯状態になります。
- 録音中にメトロノームを鳴らしたい場合は、メトロノームをオンにしておきます。

2 録音の待機状態に入ります。

- レコードボタンを押します。ボタンの上のランプが点滅を開始します。
- 録音されていないトラックが優先して選ばれ、ランプが点滅を始めます。両トラックともデータがない場合は、トラックAが優先されます。
- 両トラックとも録音済みの場合は、最後に録音したトラックの方が優先して選ばれます。ただし、電源を入れた直後は、トラックAが優先されます。
- 拍子の設定は、この時点でも可能です。

3 録音するトラックを選びます。

- AまたはBのトラックボタンを押します。押した方のトラックのランプが点滅します。
- どちらかのトラックが録音済みの場合で、そのトラックだけで録音できる容量一杯まで録音されている場合は、もう一方のトラック(データがないトラック)は、選択できません。

4 録音を開始します。

- 鍵盤演奏を始めると同時に録音が開始されます。
- プレイ／ストップボタンを押しても、録音が開始されます。この場合は、プレイ／ストップボタンを押してから実際に鍵盤で演奏を始めるまでの「間」も記録されます。
- 録音が開始されると、レコードボタン上のランプは点滅から点灯に変わります。

5 録音を終了するには、プレイ／ストップボタンを押します。

- レコードボタン上のランプが消灯し、録音したトラックのランプが点灯します。
- 今録音した内容をそのまま再生したい場合は、ここで再度プレイ／ストップボタンを押してください。
- ソングメモリーモードを解除するには、ソングメモリーボタンを押して、ボタン上のランプを消灯させます。

録音済みのトラックを再生しながら、もう一方のトラックに録音するには

基本的な操作は、前項「鍵盤演奏をそのまま録音するには」と同じです。以下に違いを説明します。

例：録音済みのトラックAの再生に合わせて、トラックBに録音したい場合

- 前項「鍵盤演奏をそのまま録音するには」の手順2 の前に、トラックAボタンを押して、Aのランプを点灯させておきます。
- 録音の待機状態に入ると、上の例ではAのランプが点灯状態のままで、Bのランプが点滅をはじめます。
  Aのランプが点滅した場合には、トラックBのボタンを押してBのランプを点滅させます。
- 手順4の操作を行なうと、トラックAの再生とトラックBへの録音が同時に開始されます。トラックAの再生に合わせて、演奏を開始してください。
- 録音待機状態ではテンポと拍子を変更することができます。ただし、再生時は、どちらのトラックも後から録音したトラックで設定したテンポや拍子で再生されます。

再生するには

録音した内容を再生するには、以下の操作に従ってください。

操作手順

1 ソングメモリーボタンを押します。

- ソングメモリーボタン上のランプが点灯します。

2 再生するトラック（A または B）を選びます。

- 選んだ方のトラックボタンを押すと、ランプが点灯します。

3 プレイ／ストップボタンを押して、再生を始めます。

- 再生の途中でメトロノーム音をオンまたはオフにしたい場合は、メトロノームボタンを押します。
- メトロノームの発音を止めるには、メトロノームボタンを押します。
- 録音した演奏が終わると、自動的に止まります。
- 途中で止めるときは、プレイ／ストップボタンを押します。

NOTE

- 録音が終わったあと、すぐ再生するときは手順1、2を行なう必要はありません。
- 再生の音色を変えることはできません。
- 再生時にテンポを変更することができます。

消去するには

重要

- **以下の操作を完了すると同時に、録音した内容はすべて消去され、元に戻すことはできなくなります。消去しようとしているトラック(AまたはB)を一度再生して、消去してもよいことをご確認の上、以下の操作を行なうことをおすすめします。**

操作手順

1 ソングメモリーボタンを押します。

- ソングメモリーボタン上のランプが点灯します。

2 ソングメモリーボタンを押しながら、消去したいトラック（A または B）のボタンを押します。

- トラックの内容が消去されます。
- ソングメモリーモードを解除するには、ソングメモリーボタンを押します。

デモ演奏を聴いてみましょう

本機には、16曲のデモ演奏が内蔵されています。

全曲を聴くには

操作手順

1 **ミュージックライブラリーボタンを押しながら、プレイ／ストップボタンを押します。**
- 1曲目から順番に、全曲が繰り返し演奏されます。

曲を選んで聴くには

それぞれの曲は、本機に内蔵されている各音色と同じ音色を使って演奏されます。曲名とそれに対応する音色名は下記の【デモ演奏リスト】で確認してください。

操作手順

1 **デモ曲再生中に、聴きたい曲名に対応するトーンボタンを押します。**

例：デモ曲NO.2を選ぶには、PIPE ORGAN 1 ボタンを押してから、バリエーションボタンを押してバリエーションボタンのランプを点灯させます。

- 選んだ曲から順番に、全曲が繰り返し演奏されます。
- デモ曲再生中に、バリエーションボタンまたは現在再生されている音色のトーンボタンを押すと、演奏されているデモ曲のトーンボタンに割り当てられているもう一方の音色のデモ曲が選択されます。

演奏を止めるには

操作手順

1 **プレイ／ストップボタンを押します。**

NOTE

- 演奏中、テンポや音色の変更、メトロノームを鳴らすことはできません。
- 演奏中、鍵盤を弾くと、デモ演奏と同じ音色で弾くことができます。
- デモ演奏中は、ボリュームスライダーを調節することができます。
- 演奏している間だけ、下記の内容は各曲に設定されているものに、自動的に切り替わっています。
  - 音色
  - デジタルエフェクト
  - トランスポーズ
  - チューニング
  - 音律：12平均律
  - バロック・ピッチ：オフ
- デモ演奏に合わせて鍵盤演奏しているとき、ペダルの効果は鍵盤演奏に対してかかり、デモ演奏にはかかりません。
- デモ演奏を、MIDIで送信することはできません。

【デモ演奏リスト】

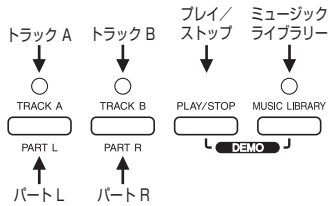
□は、バリエーション音色です。

デモ曲 No.	曲名	作曲者	音色名	演奏時間
1	エチュード　作品10の12「革命」	ショパン	GRAND PIANO 1	2分35秒
2	主よ、人の望みの喜びよ	バッハ	PIPE ORGAN 2	1分18秒
3	オリジナル	―	ELEC PIANO 1	1分33秒
4	オリジナル	―	STRINGS 2	1分11秒
5	オリジナル	―	ACOUSTIC BASS	48秒
6	ハンガリー舞曲　第5番（連弾）	ブラームス	GRAND PIANO 2	2分24秒
7	オリジナル	―	VIBRAPHONE	1分10秒
8	「我が若き命、やがて果てむ」にもとづく変奏曲より	スヴェーリンク	CHOIR	1分18秒
9	オリジナル	―	BRIGHT PIANO	1分10秒
10	オリジナル	―	SYNTH-PAD	1分18秒
11	調子のいい鍛冶屋	ヘンデル	HARPSICHORD	2分12秒
12	オリジナル	―	STRINGS 1	2分00秒
13	オリジナル	―	ELEC PIANO 2	1分55秒
14	オリジナル	―	RIDE ACO BASS	54秒
15	ファンタジーとフーガ ト短調 BWV542 より	バッハ	PIPE ORGAN 1	1分48秒
16	スコットジョプリンのニューラグ	ジョプリン	HONKY-TONK	1分04秒

430A-J-022B

ミュージックライブラリーの曲を使って演奏してみましょう

内蔵されている50曲のミュージックライブラリー曲からお好きな曲を選んで、右手パートと左手パート（連弾曲は第1ピアノ＜Primo＞と第2ピアノ＜Secondo＞）に分けて弾くことができます。テンポを変更して自分のペースに合わせたり、メトロノームを併用することも可能です。ミュージックライブラリー曲の曲名については、38ページ「ミュージックライブラリー曲一覧表」をご参照ください。連弾曲には“（連弾）”と記載されています。



お手本の演奏を聴くには

ミュージックライブラリーの曲を聴くには、以下の操作を行ないます。

操作手順

1 ミュージックライブラリーボタンを押してランプを点灯させます。

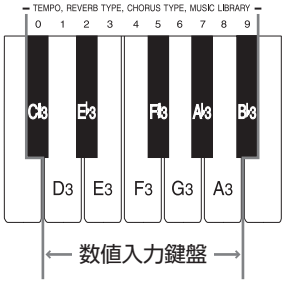
2 メトロノームを設定します。

メトロノームをオフにする場合：
メトロノームボタンを押して、ボタン上のランプを消灯させます。曲が始まる前のカウント音、曲再生中のメトロノーム音は共に鳴りません。ボタン上のランプは、曲のテンポにあわせて点滅します。

メトロノームをオンにする場合：
メトロノームボタンを押して、ボタン上のランプを点灯させます。曲が始まる前のカウント音が鳴ります。ボタン上のランプは、曲のテンポにあわせて点滅します。
また、これとは別に曲が始まる前のカウント音のみ鳴らして、曲再生中のメトロノーム音を鳴らすか鳴らさないかを次項の操作で選択できます（「曲再生中のメトロノーム音をオン／オフするには」参照）。

3 再生したい曲番号を選びます。

- 曲番号と曲名との対応は、38ページの「ミュージックライブラリー曲一覧表」を参照してください。



- ミュージックライブラリーボタンを押したままの状態で、再生したい曲の番号を上図の数値入力鍵盤（C♯3～B♭3）で入力します（このとき、どの鍵盤を押しても音はなりません）。1桁あるいは2桁で入力してください。ミュージックライブラリーボタンを離した時点で曲番号が確定されます。
  例：「主よ、人の望みの喜びよ」を選ぶには、ミュージックライブラリーボタンを押したまま、鍵盤“2”を押します。
- パートボタン（L/R）の両方のランプが点灯します。
- 全曲再生モードにするには、曲番号“99”を選択します。全曲再生中は、ミュージックライブラリーボタン上のランプが点滅します。

4 プレイ／ストップボタンを押して、再生を開始します。

- 各曲はカウント音後、再生が始まります（カウント音は、メトロノームがオンの状態の場合のみ鳴ります）。
- テンポは各曲のおすすめのテンポに切り替わります。
- 演奏中、鍵盤を弾くと、ミュージックライブラリー曲の演奏と同じ音色で弾くことができます。

5 再生を止めるには、プレイ／ストップボタンを押します。

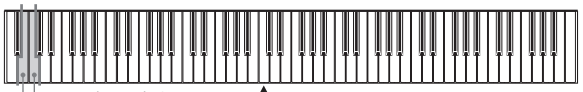
- 1曲のみの再生の場合は、曲が最後まで演奏されると自動的に再生が止まります。
- 全曲再生（曲番号“99”）を選択した場合は、プレイ／ストップボタンを押すまで繰り返し演奏が続きます。
- ミュージックライブラリーモードを解除するには、ミュージックライブラリーボタンを押して、ボタン上のランプを消灯させます。

NOTE

- ミュージックライブラリーボタンを押したときは、前回最後に設定した曲番号が選択されます。
- 曲番号の選択後は、曲の再生テンポの変更を行うことができます。再生テンポは、曲を変更するごとに、その曲に対してあらかじめ設定されているテンポに戻ります。
- 曲の再生中に操作および設定ができるのは、下記の通りです。
  - ボリューム
  - ブリリアンス
  - テンポ
  - タッチセレクト
  - 音色
  - 左手パート、右手パートのオン／オフ
  - メトロノーム
  - 鍵盤演奏
  - ペダル操作
- 曲の再生中でも、MIDI INからの入力は受け付けます。
- ミュージックライブラリーやソングメモリーモードの状態でない時に、プレイ／ストップボタンを押した場合は、ミュージックライブラリーモードに移り曲の再生を開始します。

曲再生中のメトロノーム音をオン／オフするには

1 設定ボタンを押したままの状態で、いずれかの鍵盤を押します。



B0 ..... オフ： カウント音のみ鳴らす
C1 ..... オン： カウント音、曲再生中でのメトロノーム音共に鳴らす

- このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。

NOTE

- 電源を入れたときは、メトロノーム機能がオンの場合、プレカウント音、曲再生中でのメトロノーム音は共に鳴ります。

パートごとに練習するには（パートレッスン）

ミュージックライブラリーの曲は、右手と左手（連弾曲は第1ピアノ＜Primo＞と第2ピアノ＜Secondo＞）の2つのパートに分かれています。片方のパートだけを再生して、それに合わせて残りのパートを自分で弾いて練習することができます。

準備

- 21ページ「お手本の演奏を聴くには」の手順1、2の操作で、あらかじめ練習したい曲を選んでおいてください。
- パートレッスン時のテンポを設定しておきます。設定方法は、メトロノームのテンポ設定の方法と同じです（17ページ参照）。

操作手順

1 練習したいパートを選びます。

- 自分が練習したいパートの パートボタン（LまたはR）を押して、片方のランプを消灯させます。

＜右手／Rパート（第1ピアノ）を練習するとき＞
パート Rボタン ..... ランプ消灯
パート Lボタン ..... ランプ点灯

＜左手／Lパート（第2ピアノ）を練習するとき＞
パート Lボタン ..... ランプ消灯
パート Rボタン ..... ランプ点灯

2 メトロノームを設定します。

- メトロノームボタンを押して、ランプを点灯させます。
- メトロノーム音を鳴らしたくない場合は、メトロノームボタンのランプを消灯させておきます。

3 プレイ／ストップボタンを押して、曲に合わせて弾いてみましょう。

- 最大1 小節のカウント音後、再生が始まります（カウント音は、メトロノームがオンの状態の場合のみ鳴ります）。

4 再生を止めるには、プレイ／ストップボタンを押します。

- 曲が最後まで演奏されると自動的に再生が止まります。

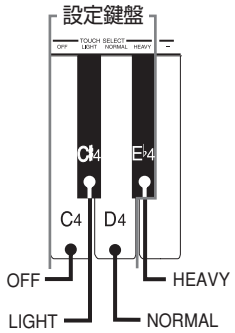
NOTE

- 拍子は曲ごとに固定されていますので、変えることはできません。
- 再生（ミュージックライブラリーモード）の途中で録音（ソングメモリー）を開始することはできません。
- 再生中のペダル操作は、鍵盤演奏のみにかかります。
- その他の動作は、21ページ「お手本の演奏を聴くには」の ***NOTE*** に準じますので、そちらもご参照ください。

鍵盤の設定を変えてみましょう

タッチセレクトについて

鍵盤を押す強さや速さは、人によって異なります。お子様や初心者の方のように、指の力が弱い方や、強いタッチで練習したい方のために、鍵盤を弾くときの強弱感度を変えることができます。
タッチセレクトの設定は、以下の鍵盤を使用します。



設定内容
- OFF ..... オフ
- LIGHT ..... 弱い（弱めに弾いても大きな音、強い音が出ます）
- NORMAL ..... 標準（標準的な感度です）
- HEAVY ..... 強い（強めに弾いて、標準の音が出ます）

タッチセレクトを設定するには

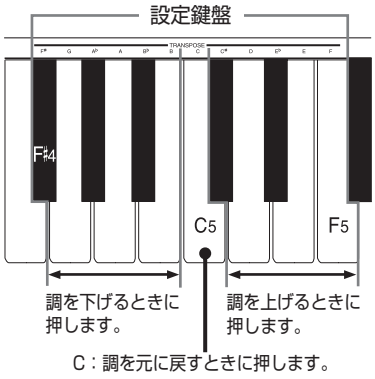
1 設定ボタンを押したまま、設定したい感度と対応している鍵盤を押します。
- このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。

NOTE
- 電源を入れたときは、“標準”に設定されています。

トランスポーズについて

本機の鍵盤全体の音の高さを、半音単位で上下させることができます。
例えば、歌の伴奏をするとき、その楽譜が歌う人の声の高さに合わないことがあります。このようなとき、楽譜（指の位置）はそのままで、簡単に調を変えることができます。

トランスポーズを選択する場合は、以下の鍵盤を使用します。



トランスポーズを設定するには

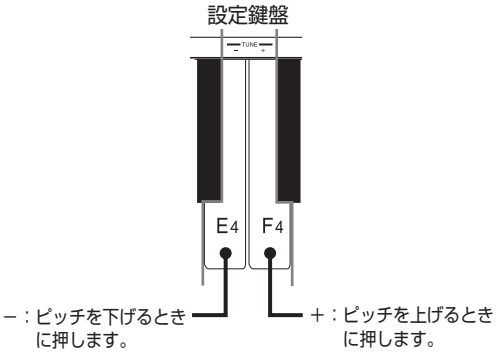
1 設定ボタンを押したまま、設定したい調の鍵盤を押します。
- 調の設定範囲は F♯～C～Fです。
- このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。

NOTE
- 電源を入れたときは、“C”に設定されています。また、一度設定した調は、電源を切ると同時に、そのつど解除されます。

チューニングについて

他の楽器の演奏に合わせて、本機全体のピッチをA4=440.0Hzから±50セント※の範囲で調節することができます。

チューニングの設定は、以下の鍵盤を使用します。



チューニングの設定

1 設定ボタンを押しながら、いずれかの鍵盤を押します。鍵盤“E4（－）”を押すごとに、約0.8セント※（1/128半音）ずつ下がり、鍵盤“F4（＋）”を押すごとに、約0.8セント※ずつ上がります。

- 鍵盤を押し続けると、数値をすばやく変更できます。
- このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。

NOTE

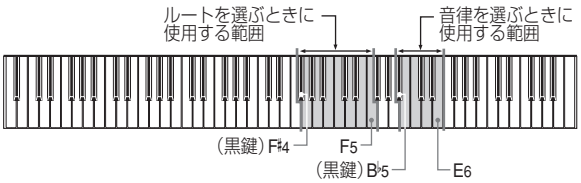
- 設定ボタンを押しながら鍵盤“E4（－）”と鍵盤“F4（＋）”を同時に押すと、チューニングはA4=440.0Hzになります。

※“100セント＝半音”です。

音律について

現代のピアノは、「平均律」と呼ばれる方法で調律されており、本機もこの方法に従っています。しかし、鍵盤楽器の歴史においては「平均律」は比較的最近のもので、バッハの時代やベートーベンの時代、あるいはショパンの時代それぞれに、さまざまな調律法が存在し、普及していました。
本機は平均律を含め7種類の異なる音律を搭載しており、古典音楽を当時の音律の持つ独特の響きのままに再現することができます。

音律を選択する場合は、以下の鍵盤を使用します。



B♭5 ..... 12平均律
B5 ..... キルンベルガー第Ⅲ法
C6 ..... ヴェルクマイスター第1技法第3法
C♯6 ..... ミーントーン（中全音律）
D6 ..... ピタゴラス音律
E♭6 ..... 純正律長調
E6 ..... 純正律短調

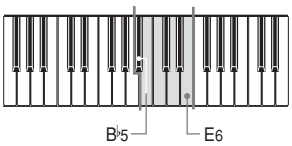
NOTE

- 電源を入れたときの音律の設定は“12平均律”、ルート（音律の基準となるキー）は“C”に設定されています。
- 上記の音律についての解説は、25ページの「それぞれの音律の特長」をご参照ください。

操作手順

1 設定ボタンを押し、以後手順４まで押し続けます。

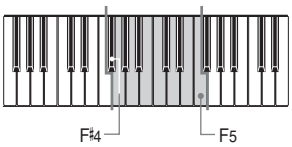
2 音律を選択します。設定ボタンを押したまま、選択したい音律と対応している鍵盤を押します。



- このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。

3 ルートを選択します。設定ボタンを押したまま、選択したいルートと対応している鍵盤を押します。

- 例えば、ルートを“F”に設定するには、“F5”を押します。



- このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。
- バロック・ピッチ(26ページ参照)をオンにしたときは、設定したいルートの半音下の音を設定してください。例えば、ルートを“C”にしたい場合は、“B4”の鍵盤を押してください。

4 設定ボタンから手を離して、音律の選択を完了します。

NOTE

- 上記の操作の中で、音律の選択のみを行い、ルートの設定を行わなかった場合は、ルートは自動的に“C”に設定されます。
- ルートの設定後にトランスポーズを行なった場合でも、ルートは変化しません。
- トランスポーズを行なった状態で、ルートの設定をする場合でも、ルートの設定に使用する鍵盤は移動しません。

それぞれの音律の特長

● 12平均律

8度（1オクターヴ）を12の半音に平均等分した、現在の鍵盤楽器に一般に適用されている音律です。12平均律は、理論的には17世紀にすでにかなりの発展をしていましたが、実際の鍵盤楽器に一般に採用されはじめたのは、18世紀の半ば以降のことでした。12平均律の長所は、あらゆる調への自由な転調ができるという点で、鍵盤楽器にとってはもっとも合理的な調律法です。しかし、長3度の響きがいくらか悪くなるなどの問題点もあり、現代でもクラシック曲の演奏会などではヴェルクマイスターやキルンベルガー、あるいはミーントーンなどの音律が採用されることがあります。

● キルンベルガー第Ⅲ法

キルンベルガーは、晩年のバッハに師事した弟子の一人で、純正律とミーントーンを発展させた調律法を考案しました。この音律も、すべての調での演奏が可能になるように調節してあります。

● ヴェルクマイスター第１技法第３法

ヴェルクマイスターは現代用いられている平均律の研究で有名な理論家の一人で、この音律は平均律に至る過渡期の音律と言えます。バッハが「平均律クラヴィーア曲集」を書いた時の鍵盤楽器の調律法は、実際にはこの音律によっていたと考えられています。すべての調での演奏が可能です。

● ミーントーン（中全音律）

純正律を調節し、鍵盤楽器の調律法として実用性を高めたものです。ルネサンスの時代から18世紀の後半頃まで広く採用され、ヘンデルやバッハ時代には、まだ多くのチェンバロやオルガン、ピアノがこの方法で調律されていました（英国には、19世紀後半になってもミーントーンを採用していたオルガン・ピアノのメーカーがあったほど、鍵盤楽器の調律法として定着していたものです）。ヘンデルのオラトリオである「メサイア」などは、このミーントーンで演奏されなければならないとされています。

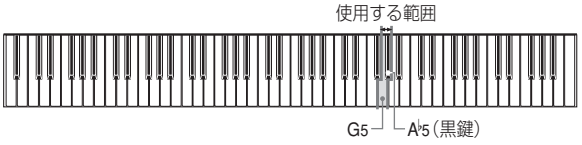
● ピタゴラス音律
古代ギリシアの哲学者ピタゴラスにより紀元前5世紀ごろ開発された音律で、ほとんどの完全5度を純正に取ってあります（つまり、5度とその裏返しの4度の響きには濁りがありません）。中世ヨーロッパの音楽においてはこの音律が中心的でした。メロディーの演奏には向いており、例えばグレゴリオ聖歌などにはこの音律が用いられたと考えられています。

● 純正律
ピタゴラス音律の欠点であった3度の不協和を解消し、多くの完全5度、長3度、短3度を巧みにバランスよく純正にした音律です。中世ヨーロッパでも 11 世紀ごろになると自由オルガヌムなどの多声楽に3度の和声が使われるようになり、3度･5度の和声の響きを美しくとるという必要が出てきたため、発達したと考えられます。
反面、一部の5度（例えばハ長調におけるニとイの5度）にはかなりの不協和が発生してしまいます。

バロックピッチについて

クラシック音楽のバロック時代においては、現代の音楽よりもかなり基準となる音（A4）のピッチが低かったとされています。バロックピッチを使うと、バロック時代に主流だったピッチで演奏することができます。

バロックピッチを選択する場合は、以下の鍵盤を使用します。



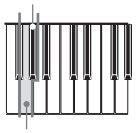
A♭5 ..... オン（バロック・ピッチ）：A4 = 415.3Hz
G5 .....オフ（通常のピッチ）：A4 = 440.0Hz

操作手順

1 設定ボタンを押し、以後手順3まで押し続けます。

2 バロック・ピッチのオン／オフの選択をします。設定ボタンを押したまま、選択したいピッチと対応している鍵盤を押します。

A♭5（黒鍵）=オン：バロックピッチにするとき



G5=オフ：通常のピッチに戻すとき

● このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません

3 設定ボタンから手を離して、バロック・ピッチのオン／オフの選択を完了します。

NOTE

● 電源を入れたときは、バロック・ピッチはオフ（A4 = 440.0Hz）に設定されています。

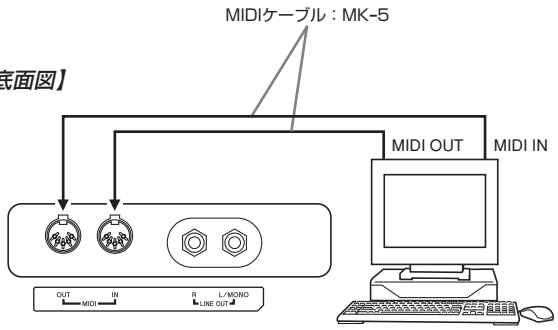
MIDI を使ってみましょう

MIDI について

電子楽器同士、あるいは電子楽器とパソコンとの間で情報をやり取りできるように、デジタル信号の仕様や端子の形状について定めた統一規格のことです。

MIDI の接続について

パソコンなどの外部機器に本機の演奏内容を録音／再生する場合は、お互いの MIDI IN/OUT 同士を接続して、双方向で MIDI メッセージのやり取りができるようにします。



複数チャンネルによる同時受信（マルチティンバー）について

本機のマルチティンバー機能で、1から16までのMIDIチャンネルに、本機の持つ音色をどれでも自由に割り付けて、外部に接続した市販のマルチトラック・シーケンサーにより、複数のチャンネルを同時に鳴らすことができます。

NOTE

- 各チャンネルに音色を割り付けるには、本ページの「チャンネルごとの音色の指定」を参照してください。
- 同時に受信できるチャンネルの数は、最大16です（1チャンネルから16 チャンネルをすべて同時に受信している状態）。
- 受信するチャンネルをあらかじめ決めておくことはできません。チャンネルのキャンセルが必要な場合、送信側で行なってください。

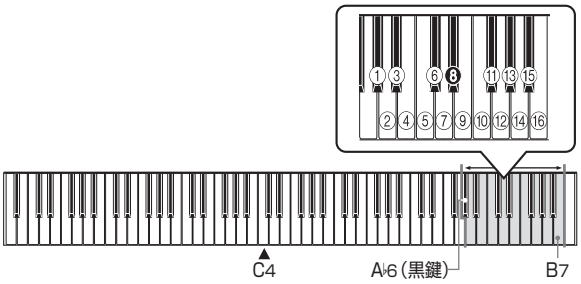
キーボードチャンネルの設定について

キーボードチャンネルとは、本機の MIDI メッセージを外部の機器へ送信するチャンネルのことです。キーボードチャンネルは1～16 のMIDIチャンネルの中から1つ指定します。

キーボードチャンネルの番号を指定するには

1 設定ボタンを押したまま、指定したいチャンネルと対応している鍵盤を押します。

例：チャンネルを８に合わせるとき



- このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。

NOTE

- 電源を入れたときは、“1 チャンネル”に設定されています。

チャンネルごとの音色の指定

本機と接続された外部の MIDI 機器から本機にプログラムチェンジを送信することによって、各チャンネルの音色を指定することができます。本機からの操作では、各チャンネルの音色を変更することはできません。

NOTE

- 電源を入れたときは、すべてのチャンネルに“GRAND PIANO 1”の音色が設定されています。

ソングメモリーの再生情報の送信

本機は、ソングメモリーに録音した曲の再生時に、その演奏情報を MIDI 情報として送信します。
送信チャンネルは、キーボードチャンネルの設定に応じて以下のようになります。

演奏情報	キーボードチャンネル
鍵盤演奏のメイン音色の情報	キーボードチャンネル
鍵盤演奏のレイヤー音色の情報	キーボードチャンネル＋1※
鍵盤演奏のスプリット音色の情報	キーボードチャンネル＋2※
トラック A の再生情報中のメイン音色の情報	キーボードチャンネル＋3※
トラック A の再生情報中のレイヤー音色の情報	キーボードチャンネル＋4※
トラック A の再生情報中のスプリット音色の情報	キーボードチャンネル＋5※
トラック B の再生情報中のメイン音色の情報	キーボードチャンネル＋6※
トラック B の再生情報中のレイヤー音色の情報	キーボードチャンネル＋7※
トラック B の再生情報中のスプリット音色の情報	キーボードチャンネル＋8※

※“+1 ～ +8”の結果が 16 を越えた場合、各情報は結果から 16 を引いた数のチャンネル番号で送信されます。

NOTE

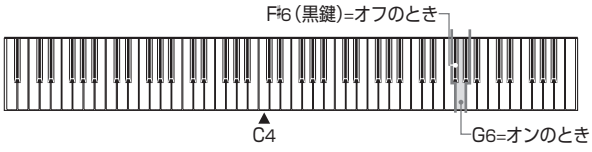
- ソングメモリーに記録されている情報には、鍵盤上の演奏情報と同様に、ペダル操作の情報も記憶されています。ペダル操作による効果は、常に鍵盤演奏のみにかかり、ソングメモリーの再生には影響を与えません。また、ソングメモリーに記録されているペダル情報によるペダル効果は、ソングメモリーのみにかかり、鍵盤演奏には影響を与えません。

ローカルコントロールの設定について

鍵盤やペダルによる演奏情報をMIDI OUTのみから出力し、音源に対して送らないようにすることができます。

ローカルコントロールのオン／オフを選択するには

1 設定ボタンを押したままの状態で、いずれかの鍵盤を押します。



- このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。

NOTE

- 本機のみで使用するときに、ローカルコントロールをオフにすると、鍵盤を弾いてもスピーカーから音が出なくなりますので、ご注意ください。
- 電源を入れたときは、ローカルコントロールが必ずオンになります。

本機が送受信するMIDI情報について

ここでは、本機が送受信するMIDI情報について解説します。必要に応じて、40 ページの「MIDI インプリメンテーション」、巻末の「MIDIインプリメンテーション・チャート」※もご参照ください。

※ MIDIインプリメンテーション・チャートは、本機とMIDI機器間でデータ転送がどのように実行されるかをまとめたもので、MIDI 規格に準拠したフォーマットにより記述したものです。

鍵盤演奏情報（ノート・オン、ノート・オフ、ノート・ナンバー、ベロシティー）について

本機では下記の4種類が、鍵盤演奏情報として送受信できます。

演奏情報	内容
ノート・オン	鍵盤を押した
ノート・オフ	鍵盤を離した
ノート・ナンバー	どの鍵盤を押したか
ベロシティー	どのくらいの強さで押したか

音色の切り替え情報（プログラム・チェンジ）について

プログラム・ナンバーとは、音色を選ぶための情報です。外部のシーケンサーなどからMIDI演奏データを受信し、本機の音色を使って再生する場合に便利です。ただし音色が切り替わるのは、本機が内蔵している音色に対応したプログラム・ナンバーを受信した場合だけです。それ以外のナンバーでは、音色を切り替えずに再生します。
本機では、下表の通りにプログラム・ナンバーを送受信します。

音色名	送信			受信		
	バンクセレクト		プログラム	バンクセレクト		プログラム
	MSB	LSB	ナンバー	MSB	LSB	ナンバー
GRAND PIANO 1	2	0	0	2	0	0
BRIGHT PIANO	2	0	1	2	0	1
GRAND PIANO 2	0	0	0	0	0	0
HONKY-TONK	0	0	3	0	0	3
ELEC PIANO 1	16	0	4	16	0	4
ELEC PIANO 2	0	0	4	0	0	4
HARPSICHORD	0	0	6	0	0	6
VIBRAPHONE	0	0	11	0	0	11
PIPE ORGAN 1	0	0	19	0	0	19
PIPE ORGAN 2	24	0	19	24	0	19
STRINGS 1	2	0	49	2	0	49
STRINGS 2	0	0	48	0	0	48
CHOIR	0	0	52	0	0	52
SYNTH-PAD	0	0	88	0	0	88
ACOUSTIC BASS	0	0	32	0	0	32
RIDE ACO BASS	32	0	32	32	0	32

ペダルの操作、エフェクト部の操作の情報（コントロール・チェンジ、ユニバーサルシステムエクスクルーシブ）

ダンパー、ソフト、ソステヌートそれぞれのペダルを踏み込んだ、離した、という情報、および各デジタルエフェクトの選択情報が送受信できます。

困ったときは

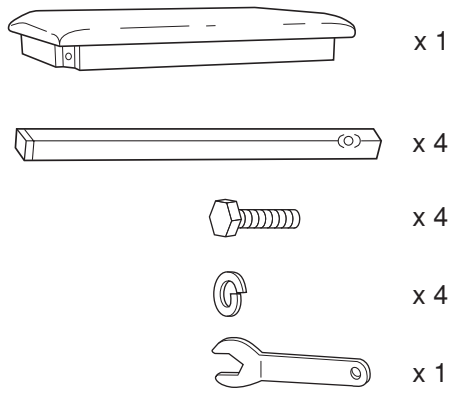
現象	原因	解決方法	参照
鍵盤を押しても音が出ない。	1. ボリュームスライダーが“MIN”の位置にある。 2. ヘッドホンがつながっている。 3. ローカルコントロールの設定がオフになっている。	1. ボリュームスライダーを“MAX”の方に動かす。 2. ヘッドホンをヘッドホン端子から抜く。 3. ローカルコントロールの設定をオンにする。	☞ 10ページ ☞ 9ページ ☞ 28ページ
ピッチがずれて聴こえる。	1. トランスポーズの設定が“通常の位置”以外になっている。 2. チューニングが正しく設定されていない。 3. バロック・ピッチがオンの状態になっている。	1. トランスポーズの設定を“通常の位置”にする。または、電源を入れ直す。 2. チューニングを正しく設定する。または、電源を入れ直す。 3. バロック・ピッチをオフの状態にする。または電源を入れ直す。	☞ 23ページ ☞ 24ページ ☞ 26ページ
ペダルを踏んでいないのに、効果がかかりっぱなしになる。	ペダルのプラグが、本体に正しく接続されていない。	一度電源を切ってから、ペダルのプラグをペダルコネクタに、しっかりと接続する。	☞ 34ページ
デモ演奏を始めたが音が出ない。	1. ボリュームスライダーが“MIN”の位置にある。 2. ヘッドホンがつながっている。	1. ボリュームスライダーを“MAX”の方に動かす。 2. ヘッドホンをヘッドホン端子から抜く。	☞ 10ページ ☞ 9ページ
ソングメモリーの内容が消えてしまう。	リチウム電池が消耗している。	カシオテクノ・サービスステーションに連絡して、リチウム電池を入れ替える。	☞ 36ページ
ソングメモリー機能で、トラックを選択できない。	どちらかのトラックが録音済みの場合で、そのトラックだけで録音できる容量一杯まで録音されている。	録音されているトラックの内容を消去する。	☞ 19ページ
調律が狂って聴こえる。 和音や音階が演奏中に濁って聴こえることがある。	12平均律以外の音律が選択されている。	12平均律を選択する。または、電源を入れ直す。 演奏する曲の調にあったルートの設定を行なう。	☞ 24ページ
鍵盤を押しても、外部のMIDI音源の音が出ない。	1. 本機のベーシックチャンネルと外部のMIDI音源のチャンネルが一致していない。 2. 外部音源のボリュームやエクスプレッションの設定が“0”になっている。	1. 本機と外部のMIDI音源のベーシックチャンネルを一致させる。 2. 外部音源のボリュームやエクスプレッションの設定を適切な値にする。	☞ 27ページ ☞ 外部音源の取扱説明書

イスの組み立てかた

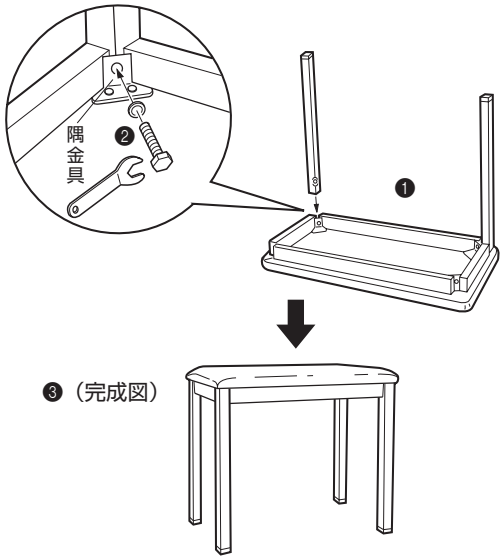
⚠注意

- イスで遊んだり、踏台にしたりしないでください。イスを遊び道具や踏台にすると、イスが倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。
- イスには二人以上で腰掛けないでください。同時に二人以上で使用すると、姿勢やイスに無理が生じ、けがの原因となることがあります。

部品をご確認ください



組み立てかた

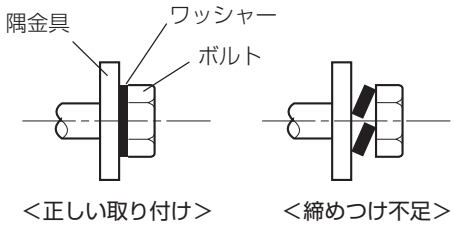


1）イスの座る面を下にして、安定した場所に置きます。(❶)

2）脚を取り付けます。

- ボルトをワッシャーに通し、隅金具の穴に入れ、専用スパナでしっかりと締め付けます。(❷)

※ このとき、必ず、ワッシャーとボルトのすき間がなくなるまで、締め付けてください。



⚠注意

- ボルトがゆるんできた場合は、専用スパナでしっかりと締め直してください。ボルトがゆるんだ状態で使用すると、ぐらつき、大変危険です。

3）イスを立てます。(❸)

取り扱い上のご注意

- 直射日光に当てたり、ストーブ等のそばに置くと、変色・変形する場合がありますので、ご注意ください。
- 不安定な床での使用は、故障等の原因になりますので、ご注意ください。

スタンドの組み立てかた

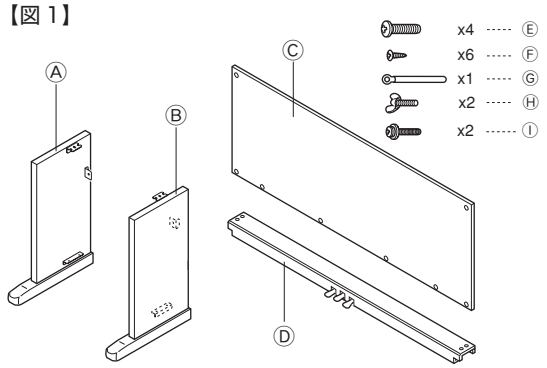
⚠注意

- 脚部、ペダル部の取り付けや、ピアノ本体をスタンドにのせる際、手などをはさまないようにご注意ください。
- 組み立てを行う際、ピアノ本体のスライド式キーボードカバーを完全に閉めるようにしてください。組み立ての際、開いていたカバーが閉まり、ピアノ本体とカバーとの間に指をはさむことがあり、危険です。

重要

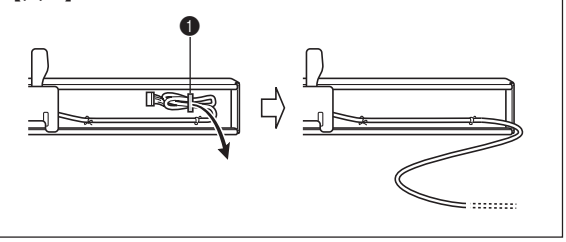
- 組み立ては、必ず平らな場所で行なってください。
- 組み立て用の工具は付属しておりません。あらかじめ大きめのプラス（＋）ドライバーをご用意ください。

【図 1】



- 最初にⒶ～Ⓘの部品がそろっていることをご確認ください（図 1）。
  ネジ類はビニール袋にまとめて、ダンボール緩衝材の中にあります。

【図 2】

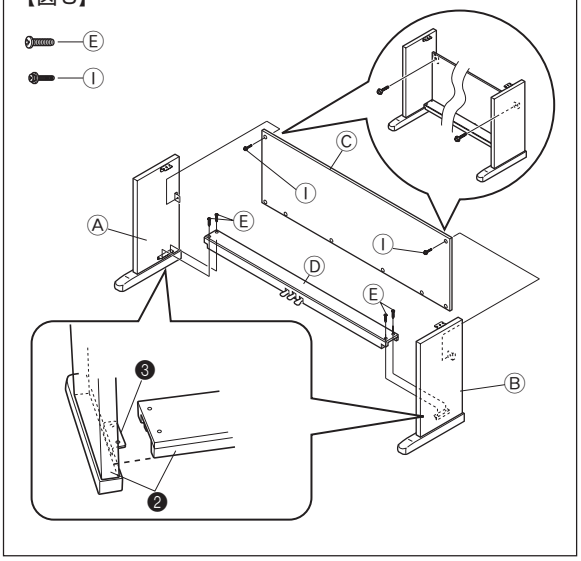


- スタンドの組み立てを始める前に、横木Ⓓの裏側にある❶の留めバンドをといて、ペダル接続用のコードを引き出します（図 2）。

1 スタンドを組み立てます

以下の 1)～ 3)の順序で行なってください。

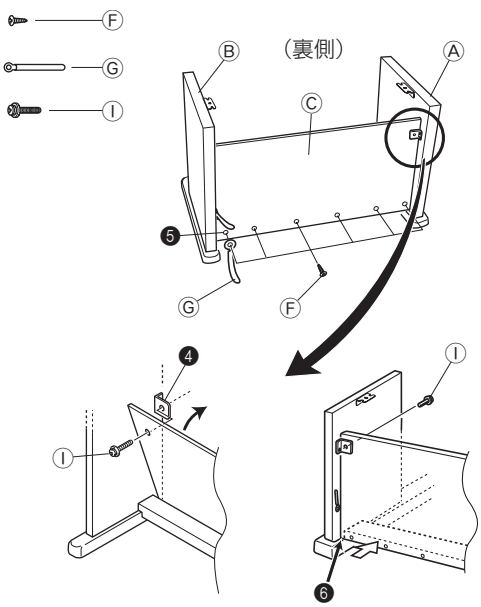
【図 3】



1）横木Ⓓを側板Ⓐ、Ⓑに取り付けます。取り付けには、ネジⒺを４本使用します（図 3）。

- ❷の部分を取り付けるときは、横木Ⓓの溝へ側板に取り付けた金具❸をはめ込みます。奥までしっかりはめ込まれていないと、金具❸とネジⒺが正しくかみあわず、ネジ山がつぶれることがあります。

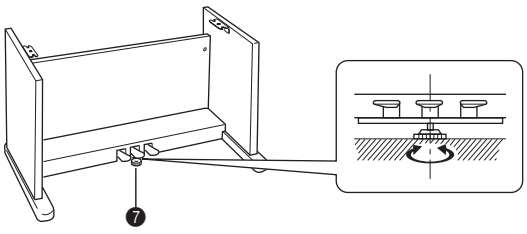
【図4】



2) 背板Ⓒを金具❹、横木Ⓓに取り付けます。金具❹に対して背板Ⓒが前にくるように取り付けます（図4）。取り付けには、ネジⒾを2本、ネジⒻを6本、クリップⒼを1本使用します（図3、図4）。

- はじめに、左右上端をネジⒾで取り付けます。❺の部分を取り付けるときは、ネジⒻをクリップⒼの穴に通してください。
- 背板Ⓒを側板Ⓐ、Ⓑの脚の部分にのせ（❻の部分）、横木Ⓓに押し付けた状態でネジⒾを取り付けてください。

【図5】



3) 高さ調節ネジ❼で、ペダルを踏み込んだ時にスタンドの横木Ⓓが沈まない所までネジ❼の高さを調節してください（図5）。

重要

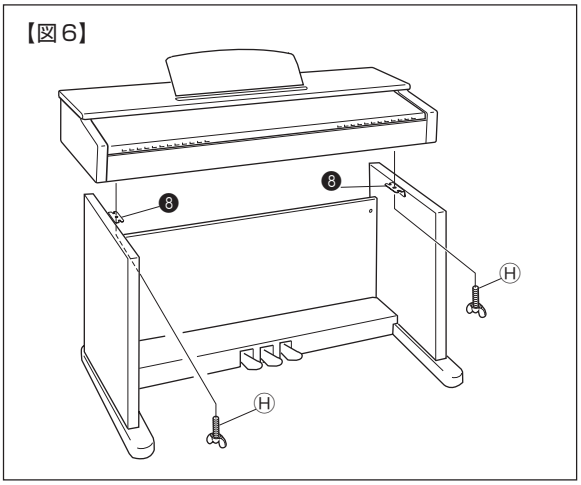
- 高さ調節ネジ❼を調節せずにペダル操作を行なうと、横木Ⓓがこわれることがあります。高さ調節ネジ❼は必ず調節してください。

2 ピアノ本体をスタンドに取り付けます

⚠注意

- ピアノ本体とスタンドの間に、手をはさまないようにご注意ください。

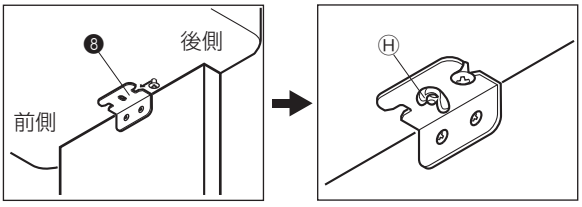
【図6】



蝶ネジⒽでピアノ本体をスタンドにしっかりと固定します（図6）。

- このとき、本体底面のネジを金具❽の切り欠きの部分に引っかけ、蝶ネジⒽで本体とスタンドを固定します（図7）。

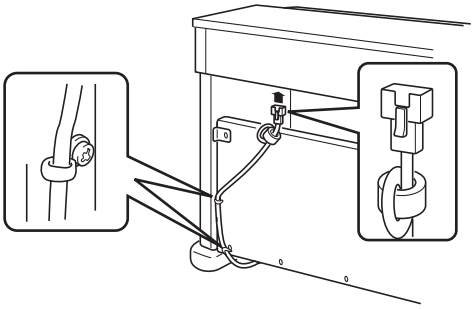
【図7】



- この蝶ネジは、ピアノ本体がスタンドからずれたり落ちたりするのを避けるために、必ず取り付けてください。

3 ペダルのプラグをピアノ本体に接続します

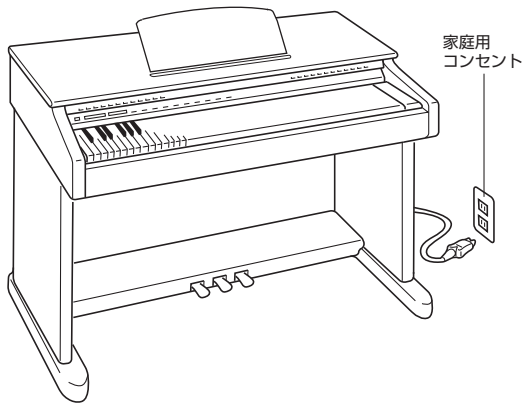
【図8】



ペダルのプラグをイラストと同じ向きにして、ピアノ本体底面のペダルコネクタに差し込み、ペダルのコードをクリップで固定します（図8）。

4 電源プラグを家庭用コンセントに差し込みます

【図9】



1）ピアノ本体の電源ボタンがオフの状態になっているのを確認してください。もしオンになっていたら、ボタンを押してオフの状態にしてください。

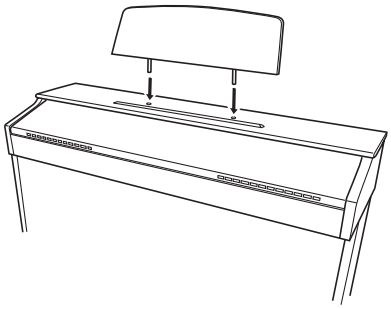
2）電源プラグを家庭用コンセントに差し込みます（図9）。

⚠注意

- スタンドのネジが温度、湿度の変化や振動などの影響でゆるんでいないか、時々点検してください。ゆるんでいたら、再度ネジをしっかりと締め直してください。
- いつでも電源プラグが抜けるよう、電源プラグに手が届く場所で本機をお使いください。

譜面立ての立て方

譜面立ては、本体の上面にある２つの穴にその脚を差し込んでお使いください。



製品仕様

型式	AP-45/AP-45C
鍵盤	88 鍵、ピアノ鍵盤、タッチレスポンス付き
同時発音数	最大 64 音
音色	• 16 種類 • レイヤー：ボリューム可変 • スプリット：スプリット位置、ボリューム可変
エフェクト	リバーブ（8 種類）、コーラス（8 種類）、ブリリアンス
デモ演奏	• 曲数：16 曲 • 再生方式：繰り返し再生（全曲、1 曲）
ソングメモリー	• 方式：リアルタイム録音、再生 • トラック数：2 トラック（トラック A、トラック B） • 容量：約 8,000 音符（2 トラック合計） • 録音内容の保持：内蔵リチウム電池による（電池寿命約 5 年）
ミュージック ライブラリー	• 曲数：50 曲 • 再生方式：全曲繰り返し再生、1 曲セレクト再生 • パートオフ：L、R
ペダル	ダンパー、ソフト 、ソステヌート
その他の機能	• メトロノーム：拍子（6 種類）、テンポ（♩= 30 ～ 255） • タッチセレクト：3 種類、オフ • トランスポーズ：1 オクターブ（F♯～ C ～ F） • チューニング： A4 = 440.0Hz ± 50 セント（可変） • 音律（7 種類） • バロックピッチ
MIDI	16ch マルチティンバー受信
入出力端子	• ヘッドホン端子：ステレオ標準ジャック× 2 • ライン出力端子（R, L / MONO）： 標準ジャック× 2 出力インピーダンス 1.1K Ω 出力電圧 1.3V (RMS) MAX • MIDI [OUT] [IN] 端子
スピーカー	φ 16cm × 2、φ 5cm × 2（出力 20W + 20W）
電源	AC100V（50、60Hz）
消費電力	42W
サイズ	• 本体のみ：幅 136.9 ×奥行 43.9 ×高さ 23.0 cm • 本体 + スタンド：幅 137.9 ×奥行 44.8 ×高さ 83.8 cm
重量	• 本体のみ：約 34.0 kg • 本体 + スタンド：約 46.0kg
付属品	ペダル（3 本）付きスタンド、イス、ヘッドホン、譜面立て、取扱説明書（本書）、保証書、楽譜集

＊ 改良のため、仕様およびデザインの一部を、予告なく変更することがあります。

【別売品のご案内】

商品名	品番
ヘッドホン	CP-16
イス	CB-5 CB-7 CB-9BN CB-20LB
MIDI ケーブル	MK-5

＊ 別売品はいずれも、カシオ電子楽器取扱店（全国の有名楽器店、デパートなど）で、お求めになれます。

ご使用上の注意

「安全上のご注意」と併せてお読みください。

設置上のご注意

本機を次のような場所に設置しないでください。

- 直射日光のあたる場所、温度の高い場所。
- 極端に温度の低い場所。
- ラジオや、テレビ、ビデオ、チューナーに近い場所（これらを近くに置いた場合、本機には特に障害はありませんが、近くに置いたラジオやテレビの側に雑音や映像の乱れが起こることがあります）。

本機のお手入れについて

お手入れにベンジン、アルコール、シンナーなどの化学薬品は使わないでください。
鍵盤などのお手入れは柔らかな布を薄い中性洗剤液に浸し、固く絞ってお拭きください。

リチウム電池消耗に関するご注意

本機は、メモリーに記録した内容を電源を切った後（メモリー停止中に電源を切った後）も保持するために、本体内にリチウム電池を内蔵しています。このリチウム電池が消耗すると、録音を行なった後で本体の電源を切ると同時に録音内容は消去されてしまいます。内蔵のリチウム電池の寿命は、本機の製造より約5年ですので、お買い上げより相当の年数が経ちましたら、最寄りのカシオテクノ・サービスステーションにご連絡ください。有償にて電池交換をいたします。

※ 本機の故障、修理や電池交換などによるメモリーデータの消失により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなるご請求についても、当社では一切その責任は負えませんので、あらかじめご了承ください。

付属品・別売品

付属品や別売品は、本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

ウエルドライン

外観にスジのように見える箇所がありますが、これは、樹脂成形上の“ウエルドライン”と呼ばれるものであり、ヒビやキズではありません。ご使用にはまったく支障ありません。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。周囲に迷惑のかからない音量でお楽しみください。窓をしめたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不明な点や誤りなど、お気付きの点がございましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。

430A-J-038A

資料

初期設定一覧表

一度電源を切り、再度電源を入れると、それぞれの項目の設定は下記のようになります。

項目		設定
音色		GRAND PIANO 1
デジタルエフェクト	リバーブ	Hall 1（GRAND PIANO 1 に設定）
	コーラス	オフ（GRAND PIANO 1 に設定）
レイヤー		オフ（レイヤーの音量：72）
スプリット		オフ（スプリットの音量：127） スプリットポイント：B3
メトロノーム	音量	2
	テンポ	120
	拍子	4
再生されるトラック		録音済トラック
タッチセレクト		標準
トランスポーズ		C
チューニング		A4 = 440.0Hz
音律		12 平均律　ルート C
バロックピッチ		オフ
ミュージックライブラリー		オフ
	ソングナンバー	1
	パート L	オン
	パート R	オン
MIDI	キーボードチャンネル	1 チャンネル
	ローカルコントロール	オン
	チャンネル音色	GRAND PIANO 1

ミュージックライブラリー曲一覧表

曲番号	曲名	作曲者
1	メヌエット「アンナ・マグダレーナのためのクラヴィーア小曲集」より	バッハ
2	インヴェンション　第１番	バッハ
3	インヴェンション　第８番	バッハ
4	インヴェンション　第13番	バッハ
5	平均律　クラヴィーア曲集　Ⅰ プレリュード　第１番	バッハ
6	ゴールトベルク変奏曲より　アリア	バッハ
7	ゴールトベルク変奏曲より 第30変奏	バッハ
8	ソナタ　K.545　第１楽章	モーツァルト
9	ソナタ　K.331　第１楽章　テーマ	モーツァルト
10	ソナタ　K.331　第３楽章 トルコ行進曲	モーツァルト
11	きらきら星変奏曲より	モーツァルト
12	ソナチネ　作品36　第１楽章	クレメンティ
13	ソナタ　作品13「悲愴」第１楽章	ベートーヴェン
14	ソナタ　作品13「悲愴」第２楽章	ベートーヴェン
15	ソナタ　作品13「悲愴」第３楽章	ベートーヴェン
16	ソナタ　作品27の２「月光」 第１楽章	ベートーヴェン
17	ソナタ　作品31の２「テンペスト」 第３楽章	ベートーヴェン
18	エリーゼのために	ベートーヴェン
19	楽興の時　作品94の３	シューベルト
20	即興曲　作品142の３　テーマ	シューベルト
21	軍隊行進曲　第１番（連弾）	シューベルト
22	ノクターン　作品９の２	ショパン
23	幻想即興曲　作品66	ショパン
24	エチュード　作品10の３「別れの曲」	ショパン
25	エチュード　作品10の５「黒鍵」	ショパン
26	エチュード　作品10の12「革命」	ショパン
27	プレリュード　作品28の７	ショパン
28	ワルツ　作品64の１「小犬のワルツ」	ショパン
29	ワルツ　作品64の２	ショパン
30	楽しき農夫	シューマン
31	異国から「子供の情景」より	シューマン
32	トロイメライ「子供の情景」より	シューマン
33	アラベスク	ブルクミュラー
34	貴婦人の乗馬	ブルクミュラー
35	乙女の祈り	バダジェフスカ
36	愛の夢　第３番	リスト
37	花の歌	ランゲ
38	ハンガリー舞曲　第５番（連弾）	ブラームス
39	ラプソディ　第２番	ブラームス
40	ワルツ　作品39の15（連弾）	ブラームス
41	プロムナード　「展覧会の絵」より	ムソルグスキー
42	子守唄　「ドリー組曲」より（連弾）	フォーレ
43	パスピエ	ドビュッシー
44	亜麻色の髪の乙女	ドビュッシー
45	アラベスク　第１番	ドビュッシー
46	エンターテイナー	ジョプリン
47	メープル・リーフ・ラグ	ジョプリン
48	ジムノペディ　第1曲	サティ
49	グノシェンヌ　第1曲	サティ
50	ジュ・トゥ・ヴ	サティ

保証・アフターサービス

■ 保証書はよくお読みください。

保証書は必ず「お買上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

■ 保証期間は保証書に記載されています。

■ 修理を依頼されるときは

まず、もう一度、取扱説明書にしたがって正しく操作していただき、直らないときには次の処置をしてください。

- 保証期間中は
  保証書の規定にしたがってお買上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノ修理相談窓口が修理をさせていただきます。
  - 保証書に「持込修理」と記載されているものは、製品に保証書を添えてご持参またはご送付ください。
  - 保証書に「出張修理」と記載されているものは、お買上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノ修理相談窓口までご連絡ください。
- 保証期間が過ぎているときは
  お買上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノ修理相談窓口までご連絡ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

■ あらかじめご了承いただきたいこと

- 「修理のとき一部代替部品を使わせていただくこと」や「修理が困難な場合には、修理せず同等品と交換させていただくこと」があります。
  また、特別注文された製品の修理では、ケースなどをカシオ純正部品と交換させていただくことがあります。
- 仕様が日本国内向けの製品は海外での修理受付ができません。修理品は日本まで移動の上、日本国内のカシオテクノ修理相談窓口にご依頼ください。
- 故障、修理、その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- この商品は修理の際、交換した部品を再生し再利用する場合があります。
- 修理の際交換した部品は、受付時に特段のお申し出がない場合、弊社にて引き取らせていただきます。

■ アフターサービスなどについて、おわかりにならないときは

お買上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノ修理相談窓口にお問い合わせください。

■ カシオ製品のアフターサービス業務は、カシオテクノ株式会社が担当いたします。

「★」マークの付いている項目については、受信のみ行ないます。

チャンネルメッセージ

ノートメッセージ

●ノートオフ

受信

フォーマット

第1バイト	第2バイト	第3バイト
8nH	kkH	vvH
9nH	kkH	00H

n …ボイスチャンネルナンバー＝0H～FH (Ch.1 ～Ch.16)
kk…ノートナンバー＝00H～7FH
vv…ノートオフベロシティ＝00H～7FH

動作

ノートオフベロシティの値は無視します。

送信

フォーマット

第1バイト	第2バイト	第3バイト
8nH	kkH	vvH

n …ボイスチャンネルナンバー=0H～FH (Ch.1 ～Ch.16)
kk…ノートナンバー=15H～6CH
vv…ノートオフベロシティ=40H

●ノートオン

受信

フォーマット

第1バイト	第2バイト	第3バイト
9nH	kkH	vvH

n …ボイスチャンネルナンバー＝0H～FH (Ch.1 ～Ch.16)
kk…ノートナンバー＝00H～7FH
vv…ノートオンベロシティ＝00H～7FH

送信

フォーマット

第1バイト	第2バイト	第3バイト
9nH	kkH	vvH

n …ボイスチャンネルナンバー＝0H～FH (Ch.1 ～Ch.16)
kk…ノートナンバー＝15H～6CH
vv…ノートオンベロシティ＝01～7FH

コントロールチェンジ

●バンクセレクト

フォーマット

第1バイト	第2バイト	第3バイト
BnH	00H	mmH (バンクセレクトMSB)
BnH	20H	llH (バンクセレクトLSB)

n…ボイスチャンネルナンバー＝0H～FH (Ch.1 ～Ch.16)
mm…バンクナンバーMSB＝00H
ll…バンクナンバーLSB＝00H

送信動作

このメッセージは音色選択のときに送信されます。

●モジュレーションホイール★

フォーマット

第1バイト	第2バイト	第3バイト
BnH	01H	vvH

n…ボイスチャンネルナンバー＝0H～FH(Ch.1 ～Ch.16)
vv…モジュレーションデプス＝00H～7FH

●ポルタメントタイム★

フォーマット

第1バイト	第2バイト	第3バイト
BnH	05H	vvH

n…ボイスチャンネルナンバー＝0H～FH (Ch.1 ～Ch.16)
vv…ポルタメントタイム＝00H～7FH

●データエントリー

フォーマット

第1バイト	第2バイト	第3バイト
BnH	06H	mmH (データエントリーMSB)
BnH	26H	llH (データエントリーLSB)

n…ボイスチャンネルナンバー＝0H～FH (Ch.1 ～Ch.16)
mm…RPN、NRPN で設定した機能のデータ値のMSB
ll…RPN、NRPN で設定した機能のデータ値のLSB

●チャンネルボリューム★

フォーマット

第1バイト	第2バイト	第3バイト
BnH	07H	vvH

n…ボイスチャンネルナンバー＝0H～FH (Ch.1 ～Ch.16)
vv…ボリューム＝00H～7FH

●パン★

フォーマット

第1バイト	第2バイト	第3バイト
BnH	0AH	vvH

n…ボイスチャンネルナンバー＝0H～FH (Ch.1 ～Ch.16)
vv…パン＝00H(左定位)～40H(中央定位)～7FH(右定位)

●エクスプレッションコントローラー★

フォーマット

第1バイト	第2バイト	第3バイト
BnH	0BH	vvH

n…ボイスチャンネルナンバー＝0H～FH (Ch.1 ～Ch.16)
vv…エクスプレッション＝00H～7FH

●ホールド1(ダンパーペダル)

フォーマット

第1バイト	第2バイト	第3バイト
BnH	40H	vvH

受信動作

n…ボイスチャンネルナンバー＝0H～FH (Ch.1 ～Ch.16)
vv…ホールド1 ＝00H～7FH (00H～3FH：OFF, 40H～7FH：ON)

送信動作

n…ボイスチャンネルナンバー＝0H～FH (Ch.1 ～Ch.16)
vv…ホールド1＝00H,7FH(00H:OFF,7FH:ON)

●ポルタメント★

フォーマット

第1バイト	第2バイト	第3バイト
BnH	41H	vvH

受信動作

n…ボイスチャンネルナンバー＝0H～FH (Ch.1 ～Ch.16)
vv…ポルタメント＝00H～7FH (00H～7EH:OFF,7FH:ON)

●ソステヌート

フォーマット

第 1 バイト	第 2 バイト	第 3 バイト
BnH	42H	vvH

受信動作

n…ボイスチャンネルナンバー = 0H ～ FH (Ch.1 ～ Ch.16)
vv…ソステヌート = 00H ～ 7FH (00H ～ 3FH:OFF,40H ～ 7FH:ON)

送信動作

n…ボイスチャンネルナンバー = 0H ～ FH (Ch.1 ～ Ch.16)
vv…ソステヌート = 00H,7FH(00H:OFF,7FH:ON)

●ソフト

フォーマット

第 1 バイト	第 2 バイト	第 3 バイト
BnH	43H	vvH

受信動作

n…ボイスチャンネルナンバー = 0H ～ FH (Ch.1 ～ Ch.16)
vv…ソフト = 00H ～ 7FH (00H ～ 3FH:OFF,40H ～ 7FH:ON)

送信動作

n…ボイスチャンネルナンバー = 0H ～ FH (Ch.1 ～ Ch.16)
vv…ソフト = 00H,7FH(00H:OFF,7FH:ON)

●レゾナンス ★

フォーマット

第 1 バイト	第 2 バイト	第 3 バイト
BnH	47H	vvH

n…ボイスチャンネルナンバー = 0H ～ FH (Ch.1 ～ Ch.16)
vv…フィルター レゾナンス = 00H ～ 7FH

●リリースタイム ★

フォーマット

第 1 バイト	第 2 バイト	第 3 バイト
BnH	48H	vvH

n…ボイスチャンネルナンバー = 0H ～ FH (Ch.1 ～ Ch.16)
vv…アンプ リリースタイム = 00H ～ 7FH

●アタックタイム ★

フォーマット

第 1 バイト	第 2 バイト	第 3 バイト
BnH	49H	vvH

n…ボイスチャンネルナンバー = 0H ～ FH (Ch.1 ～ Ch.16)
vv…アンプ アタックタイム = 00H ～ 7FH

●ブライトネス ★

フォーマット

第 1 バイト	第 2 バイト	第 3 バイト
BnH	4AH	vvH

n…ボイスチャンネルナンバー = 0H ～ FH (Ch.1 ～ Ch.16)
vv…フィルター カットオフフリケンシー = 00H ～ 7FH

●ポルタメントコントロール ★

フォーマット

第 1 バイト	第 2 バイト	第 3 バイト
BnH	54H	kkH

n…ボイスチャンネルナンバー = 0H ～ FH (Ch.1 ～ Ch.16)
kk…ソースノートナンバー = 00H ～ 7FH

●エフェクト 1 デプス(リバーブセンドレベル)

フォーマット

第 1 バイト	第 2 バイト	第 3 バイト
BnH	5BH	vvH

n…ボイスチャンネルナンバー = 0H ～ FH (Ch.1 ～ Ch.16)
vv…リバーブセンドレベル = 00H ～ 7FH

●エフェクト 3 デプス(コーラスセンドレベル)

フォーマット

第 1 バイト	第 2 バイト	第 3 バイト
BnH	5DH	vvH

n…ボイスチャンネルナンバー = 0H ～ FH (Ch.1 ～ Ch.16)
vv…コーラスセンドレベル = 00H ～ 7FH

● NRPN ★

フォーマット

第 1 バイト	第 2 バイト	第 3 バイト
BnH	63H	pmH (MSB)
BnH	62H	plH (LSB)

n…ボイスチャンネルナンバー = 0H ～ FH (Ch.1 ～ Ch.16)
pm…NRPN の MSB
pl…NRPN の LSB

受信動作

- 定義外の NRPN 番号でも受信し設定保持しますが、その後データエントリーの値を受信しても無視されます。
- 各機能は、NRPN の MSB と LSB を受信して機能が指定された後にデータエントリーの MSB を受信することで設定されます。データエントリーの LSB を受信しても無視されます。

ビブラートレイト

NRPN MSB = 01H
NRPN LSB = 08H
Data Entry MSB = mmH

mm…ビブラートレイト = 00H～40H～7FH (-64～0～+63)

受信動作

受信するとプリセット値に対する相対値を設定します。
40H(0) のときに相対値が 0 になります。

ビブラートデプス

NRPN MSB = 01H
NRPN LSB = 09H
Data Entry MSB = mmH

mm…ビブラートデプス = 00H～40H～7FH (-64～0～+63)

受信動作

受信するとプリセット値に対する相対値を設定します。
40H(0) のときに相対値が 0 になります。

ビブラートディレイ

NRPN MSB = 01H
NRPN LSB = 0AH
Data Entry MSB = mmH

mm… ビブラートディレイ = 00H ～ 40H ～ 7FH (-64 ～ 0 ～ +63)

受信動作

受信するとプリセット値に対する相対値を設定します。
40H(0) のときに相対値が 0 になります。

フィルター カットオフフリケンシー

NRPN MSB = 01H
NRPN LSB = 20H
Data Entry MSB = mmH

mm… フィルター カットオフフリケンシー = 00H ～ 40H ～ 7FH (-64 ～ 0 ～ +63)

受信動作

受信するとプリセット値に対する相対値を設定します。
40H(0) のときに相対値が 0 になります。

フィルター レゾナンス

NRPN MSB = 01H
NRPN LSB = 21H
Data Entry MSB = mmH

mm…レゾナンス = 00H ～ 40H ～ 7FH (-64 ～ 0 ～ +63)

受信動作

受信するとプリセット値に対する相対値を設定します。
40H(0) のときに相対値が 0 になります。

フィルター／アンプ エンベロープアタックタイム

NRPN MSB = 01H
NRPN LSB = 63H
Data Entry MSB = mmH

mm… フィルター／アンプ エンベロープアタックタイム＝
00H～40H～7FH (-64～0～+63)

受信動作

受信するとプリセット値に対する相対値を設定します。40H(0)のときに相対値が 0 になります。

フィルター／アンプ エンベロープディケイタイム

NRPN MSB = 01H
NRPN LSB = 64H
Data Entry MSB = mmH

mm… フィルター／アンプ エンベロープディケイタイム＝
00H～40H～7FH (-64～0～+63)

受信動作

受信するとプリセット値に対する相対値を設定します。40H(0)のときに相対値が 0 になります。

フィルター／アンプ エンベロープリリースタイム

NRPN MSB = 01H
NRPN LSB = 66H
Data Entry MSB = mmH

mm… フィルター／アンプ エンベロープリリースタイム＝
00H～40H～7FH (-64～0～+63)

受信動作

受信するとプリセット値に対する相対値を設定します。40H(0)のときに相対値が 0 になります。

● *RPN*

フォーマット

第 1 バイト	第 2 バイト	第 3 バイト
BnH	65H	qmH (MSB)
BnH	64H	qlH (LSB)

n…ボイスチャンネルナンバー＝ 0H～FH (Ch.1 ～ Ch.16)
qm…RPN の MSB
ql…RPN の LSB

受信動作

- 定義外の RPN 番号でも受信し設定保持しますが、その後データエントリーの値を受信しても無視されます。
- 各機能は、RPN のMSB とLSB を受信して機能が指定された後にデータエントリーのＭＳＢ　を受信することで設定されます。データエントリーの LSB を受信しても無視されます。

送信動作

RPN　に割り当てられたパラメータを変更するときにを操作したときに送信されます。

ピッチベンドセンシティビティー ★

RPN MSB = 00H
RPN LSB = 00H
Data Entry MSB = mmH

mm…ピッチベンドセンシティビティー＝ 00H～18H (0～24 半音)

受信動作

Data Entry LSB を受信した場合は無視されます。

マスターファインチューニング

RPN MSB = 00H
RPN LSB = 01H
Data Entry MSB = mmH
Data Entry LSB = llH

mm, ll… マスターファインチューニング＝
00 00H～40H 00H～7FH 7FH(-100～0～+99.99 セント)

マスターコースチューニング

RPN MSB = 00H
RPN LSB = 02H
Data Entry MSB = mmH

mm… マスターコースチューニング＝ 28H～40H～58H
(-24～0～+24 半音)

受信動作

Data Entry LSB を受信した場合は無視されます。

ヌル

RPN MSB = 7FH
RPN LSB = 7FH

受信動作

RPN ヌルを受信すると、以後新たにRPN ヌル以外の機能が指定されるまで、RPN、NRPN 共に Data Entry MSB, LSB を受信しても無視されます。

プログラムチェンジ

フォーマット

第 1 バイト	第 2 バイト
CnH	ppH

pp…プログラムナンバー＝ 00H～7FH

送信動作

音色選択を行なったときに送信されます。

ピッチベンドチェンジ ★

フォーマット

第 1 バイト	第 2 バイト	第 3 バイト
EnH	llH	mmH

n…ボイスチャンネルナンバー＝ 0H～FH (Ch.1 ～ Ch.16)
ll…ピッチベンドチェンジ LSB = 00H～7FH
mm …ピッチベンドチェンジ MSB = 00H～7FH

受信動作

- ピッチが最低になるときのllH mmH は、00H 00H です。ピッチの中央位置は00H 40H で得られます。ピッチが最高になるのは 7FH7FH です。
- ピッチベンドチェンジは常に LSB と MSB の 14 ビットで設定します。

チャンネルモードメッセージ

●オールサウンドオフ ★

フォーマット

第１バイト	第２バイト	第３バイト
BnH	78H	00H

n…ボイスチャンネルナンバー＝ 0H～FH (Ch.1 ～ Ch.16)

受信動作
受信した MIDI チャンネルで演奏している全ての音を直ちに消音します。

●リセットオールコントローラー ★

フォーマット

第１バイト	第２バイト	第３バイト
BnH	79H	00H

n…ボイスチャンネルナンバー＝ 0H～FH (Ch.1 ～ Ch.16)

受信動作
以下のコントローラーをリセットします。

コントローラー名	リセット値
モジュレーションホイール	vvH = 00H
エクスプレッションコントローラー	vvH = 7FH
ホールド 1	vvH = 00H
ポルタメント	vvH = 00H
ソステヌート	vvH = 00H
ソフト	vvH = 00H
NRPN	msb = 7FH, lsb = 7FH
RPN	msb = 7FH, lsb = 7FH
ピッチベンドチェンジ	llH mmH = 00H 40H

●オールノートオフ

フォーマット

第１バイト	第２バイト	第３バイト
BnH	7BH	00H

n…ボイスチャンネルナンバー＝ 0H～FH (Ch.1 ～ Ch.16)

受信動作
受信した MIDI チャンネルで発音中の音を全てノートオフします。受信時にホールド 1 またはソステヌートがオンのときは、発音を続けます。

送信動作
コントロールボタンを押した時、ソングメモリー再生を停止した時に送信されます。

●オムニモードオフ ★

フォーマット

第１バイト	第２バイト	第３バイト
BnH	7CH	00H

n…ボイスチャンネルナンバー＝ 0H～FH (Ch.1 ～ Ch.16)

受信動作
受信時にはオールノートオフメッセージとして機能します。

●オムニモードオン ★

フォーマット

第１バイト	第２バイト	第３バイト
BnH	7DH	00H

n…ボイスチャンネルナンバー＝ 0H～FH (Ch.1 ～ Ch.16)

受信動作
このメッセージを受信してもオムニモードオンにはなりません。オールノートオフメッセージとして機能します。

●モノモードオン ★

フォーマット

第１バイト	第２バイト	第３バイト
BnH	7EH	vvH

n…ボイスチャンネルナンバー＝ 0H～FH (Ch.1 ～ Ch.16)
vv…モノモードチャンネル数＝ 00H～ 10H

受信動作
このメッセージを受信してもモノモードにはなりません。単にオールサウンドオフメッセージと、オールノートオフメッセージとして機能します。

●ポリモードオン ★

フォーマット

第１バイト	第２バイト	第３バイト
BnH	7FH	00H

n…ボイスチャンネルナンバー＝ 0H～FH (Ch.1 ～ Ch.16)

受信動作
チャンネル n をモード 3 にします。
オールサウンドオフメッセージと、オールノートオフメッセージとしても機能します。

システムメッセージ

ユニバーサルシステムエクスクルーシブメッセージ

● GM システムオン ★

フォーマット
F0H 7EH 7FH 09H 01H F7H

送信動作
このメッセージは送信されません。

●リバーブタイプ設定

フォーマット
F0 7F 7F 04 05 01 01 01 01 01 pp vv F7

Reverb Type:
pp = 0;
vv = 0: Room1
= 1: Room2
= 2: Room3
= 3: Hall1
= 4: Hall2
= 6: Delay
= 7: Pan Delay
= 8: Stage

送信動作
リバーブスイッチ等、リバーブタイプ設定操作したときメッセージが送出されます。

受信動作
リバーブタイプが設定されます。

●コーラスタイプ設定

フォーマット
F0 7F 7F 04 05 01 01 01 01 02 pp vv F7

Chorus Type
pp = 0;
vv = 0: Chorus1
= 1: Chorus2
= 2: Chorus3
= 3: Chorus4
= 4: F-backChorus
= 5: Flanger
= 6: Short Delay
= 7: ShortDelayFB

送信動作
コーラススイッチ等、コーラスタイプ設定操作したときメッセージが送出されます。

受信動作
コーラスタイプが設定されます。

Model AP-45/AP-45C

MIDI インプリメンテーション・チャート

Version : 1.0

ファンクション		送　信	受　信	備　考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能範囲	1 1 ～ 16	1 ～ 16 1 ～ 16	
モード	電源ON時 メッセージ 代　用	モード3 × ＊＊＊＊＊＊＊	モード3 × ＊＊＊＊＊＊＊	
ノート ナンバー：	音　域	21 ～ 108 ＊＊＊＊＊＊＊	0 ～ 127 0 ～ 127	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH v = 1～127 × 8nH v = 64	○ 9nH v = 1 ～ 127 × 9nH v = 0,8nH V=**	**は関係なし
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンド		×	○	
コントロール チェンジ	0,32 1 5 6, 38 7 10 11 64 65 66 67	○ × × ○*1 × × × ○ × ○ ○	○ ○ ○ ○*1 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	バンクセレクト モジュレーション ポルタメントタイム データエントリー ボリューム パン エクスプレッション ダンパー ポルタメント ソステヌート ソフト

71	×	○	レゾナンス
72	×	○	リリースタイム
73	×	○	アタックタイム
74	×	○	ブライトネス
84	×	○	ポルタメントコントロール
91	○	○	リバーブセンド
93	○	○	コーラスセンド
98, 99	×	○	NRPN LSB, MSB
100, 101	○	○	RPM LSB, MSB
120	×	○	オールサウンドオフ
121	×	○	リセットオールコントローラー
プログラムチェンジ： 設定可能範囲	○ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊	○ *2	
エクスクルーシブ	○	○	
コモン ：ソング・ポジション	×	×	
コモン ：ソング・セレクト	×	×	
コモン ：チューン	×	×	
リアルタイム ：クロック	×	×	
リアルタイム ：コマンド	×	×	
その他 ：ローカル ON／OFF	×	×	
その他 ：オール・ノート・オフ	○	○	
その他 ：アクティブ・センシング	×	○	
その他 ：リセット	×	×	
備　考	*1：ファインチューン、コースチューンの送受信、及びRPN Null、ピッチベンドセンス、ビブラートレイト、ビブラートデプス、ビブラートディレイ、フィルターカットオフフリケンシー、フィルターレゾナンス、フィルター/アンプエンベロープアタックタイム、フィルター/アンプエンベロープディケイタイム、フィルター / アンプエンベロープリリースタイムの受信 *2：プログラムチェンジナンバー表参照（29ページ）		

モード1：　オムニ・オン、ポリ　　モード2：　オムニ・オン、モノ　　○ ： あり
モード3：　オムニ・オフ、ポリ　　モード4：　オムニ・オフ、モノ　　× ： なし

CASIO®

カシオ計算機株式会社
〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

P MA0507-B Printed in China
AP45JA1B